

令和2年8月6日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

開催日	令和 2 年 8 月 6 日（木）			
場 所	教育委員会室			
開 会	午後 3 時 00 分			
閉 会	午後 4 時 25 分			
出席委員				
教 育 長	加 藤	裕 之		
委 員	阿 部	博 道		
委 員	坂 根	慶 子		
委 員	浅 松	三 平		
委 員	白 石	祐 一		
説明のために出席した職員				
教育委員会事務局次長	青 木	剛		
教育委員会事務局参事 （庶務課長事務取扱）	宮 本	知 幸		
学 務 課 長	西 村	克 己		
指 導 室 長	加 藤	康 弘		
すみだ教育研究所長	石 原	恵 美		
地域教育支援課長	石 岡	克 己		
ひきふね図書館長	高 村	弘 晃		

2 議題について

(1) 議決事項

議案第34号 令和3年度使用墨田区立中学校教科用図書採択について

議案第35号 特別支援学級用教科用図書採択について

(2) 報告事項

第1 新型コロナウイルス感染症対策における連合行事の実施について（資料1）

3 会議の概要について

- **教育長** それでは、教育委員会を開会します。本日の会議録署名人は、坂根委員にお願いします。本日は、議決事項2件及び報告事項1件を予定しています。まず、日程に先立ち、会議の傍聴の取扱いについてお伝えします。本日の会議は、傍聴希望が多いと予想されたことから、このリバーサイドホールを会場とさせていただくことにしました。よって、本委員会の傍聴定員については、「墨田区教育委員会会議傍聴規則」第3条第1項の規定により、10人としておりますが、本日の会議については、同条第2項の規定により、一般傍聴を40人までとさせていただき、その他に、区議会議員の方及び報道関係者の方の傍聴も認めることといたしましたので、ご承知おきください。

議決事項第1・・・34-1～34-2

議案第34号「令和3年度使用墨田区立中学校教科用図書採択について」を上程し、指導室長が資料のとおり説明する。

- **教育長** 審議に入る前にこれまでの経過等について確認させていただきます。「墨田区立小・中学校教科用図書採択事務取扱要綱」に基づき、5月1日から6月5日までの間、「教科用図書調査委員会」を設けて専門的な調査を行うとともに、6月2日から7月1日までの間、ひきふね図書館にて教科用図書を展示して、ご来場された区民の方々からもご意見をいただきました。5月11日から6月5日までの間には、学校の教員向けに教科用図書の展示会場を複数設けて展示し、学校ごとの意見を集約し、調査報告書を受け取りました。また、6月12日に「教科用図書採択検討委員会」を立ち上げ、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民の方々からの意見等を参考として、7月6日までの間、計5回の検討委員会を開催し、全ての教科用図書について検討を行いました。そして、7月16日に本検討委員会から報告書を受け取りました。さらに、委員の皆さんには、全ての教科用図書を実際に手にして、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民からの意見、教科用図書採択検討委員会報告書等にも目を通していただきながら、教科用図書の細部にわたり、ご検討していただいたところです。なお、本日も会場に教科用図書を用意していますので、必要に応じてご確認くださいながら、審議をお願いいたします。次に、審議の順序についてです。国語科から順に、10教科16種目について審議をいたします。なお、各教科等の審議の冒頭に、学習指導要領に定める教科ごとの改訂のポイント等について、事務局から説明をします。また、時間の都合上、採択の審議中に、事務局側で教科用図書の入れ替えを順次行っていきますので、予めご了承ください。今回の教科用図書採択は、中学校学習指導要領の改訂を受けて行うものとなりますので、はじめに事務局から、新しい学習指導要領の特徴について、説明をお願いします。
- **指導室長** 平成29年3月に告示された中学校学習指導要領では、教育課程全体を通して育成を目指す資質能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱として示し、各教科等の目標及び内容を、この3つの柱で再整理しています。また、各教科等の指導においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めるものとして、言語活動や観察実験、問題解決的な学習の質を向上させることなどが求められています。さらに、より良い学校教育を通してより良い社会を作るという理念を学校と社会が共有するために、それぞれの学校において、社会との連携及び協働に

より資質能力の向上を図っていく「社会に開かれた教育課程」の実現をめざすことなどが特徴となっています。今回の教科用図書採択においては、これらの視点を踏まえたご審議をお願いいたします。

- **教育長** それでは、審議に移りますが、その前に教科書の選定の仕方についてお話をしたいと思います。数社の教科書がありますが、選定のためのポイントについて、1社1社確認するのではなく、委員が推薦するものについて、まず1社を挙げていただいて、そのポイントを挙げていただきたいと思います。もし、その説明の中で数社を比較し、考慮しなければいけない場合は、説明していただいても構いません。このような方針でよろしいでしょうか。
(「異議なし」の声あり)

- **教育長** それでは、審議に移ります。初めに、国語科について審議いたします。事務局から説明をお願いします。

- **指導室長** 国語科の目標は「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の3点のとおり育成すること」としております。
①社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
②社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。③言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。」となっています。この3つは、先ほどご説明しました、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に対応したものとなっており、各教科の目標はいずれもこの形で示されています。国語科においては、語彙指導、情報の扱い方に関する指導、学習過程の明確化、我が国の言語文化に関する指導などについて改善・充実することが重視されております。国語につきましては、現在使用している教科用図書は、「光村図書出版株式会社」でございます。全4者からの採択をお願いいたします。

- **教育長** それでは、国語科の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願いいたします。

- **坂根委員** 本日は、お暑い中、またコロナの蔓延という中、多くの皆様にお越しいただきありがとうございます。指導室長の説明にありました学習指導要領のポイントとなる3つの柱は、国語という教科によく適合した考え方だと思います。人は言葉を習得し、言葉によって考え、成長していきます。私をはじめ、ここにいらっしゃる多くの皆様は、日本語という第一言語によってものを考えていると思います。つまり、言語は思考力に欠かせないものです。まず、そのことを認識の上、結論から申し上げますが、私は第1に光村図書、次に教育出版を推薦します。その理由は、光村図書は、言語4技能の配置のバランスがよく、説明の記述が適切だからです。また、構成は、「説明的な文、実用的な文を書く」が他社に比べて多いです。社会生活では、説明的な文、実用文を書く機会が非常に多いので、先ほどの学習指導要領のポイントにも合致しています。文学的な文章は1年次に随筆、2年次に物語・小説を扱っています。これは各社同様で、短歌、俳句についても各社同様です。ただ、私が考える問題点は、書くことの評価についてです。各社かなり曖昧で、フィードバックはどうか、散文との違いはどう考えるか、その扱いが問題点だと思います。また、読むことについても、説明的な文、文学的な文、これを明確に分けることは難しいです。しかし、科学的な文はか

なり優れたものが多く扱われていて、光村図書の2年次の教科書42ページ、「クマゼミ増加の原因を探る」という教材では、研究レポート的な書き方がかなり詳しく書いてあります。その後のプレゼンテーションにまで発展する内容です。ただ、縦書きであるため、参考文献の書き方、英文字、数字等の書き方が課題だと思います。これは理科や社会でのレポートの書き方にもつながります。また、実用文の読解では、3年次の教科書64ページから68ページまで、報道文の比較があります。これは、どのように報道文を読んでいくかという単元です。68ページには、ジャーナリスト、池上彰さんの解説が書いてあります。現在は情報量が多いですが、それをどのように判断していくかの訓練は必要になります。また、特に注目したのは意見文の書き方です。各社、2年次に教材として挙げられており、「根拠を吟味して書く」ということが、どの教科書会社も「文の構造」の中に書いてあります。しかし、根拠の中に事実と意見が混在しているのがほとんどです。教育出版は、根拠とは何かという説明が11ページにあり、「根拠（事実）」となっています。三省堂には、学習用語というのがかなり詳しく書いてあり、その中で2年次の310ページ、「事実と意見」という形で書かれています。また、いわゆる三角ロジックについて、1年次で取り扱われています。学習指導要領の「読む」の中には、文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見の関係などについて、叙述を基に捉え、要旨を把握するという項目があります。しかし、先ほど申し上げました2年次の「書く」の中には、何が根拠か、何が事実か、それを明確に書いてあるところは少ないです。なぜこういうことを申し上げるかということ、国際学力調査PISAのテストの試験問題のジャレド・ダイヤモンドの書いた文章の中で、事実と意見の選択の問題がありましたが、日本の正答率は低かったそうです。何が事実か、何が意見かを明確にして、捉えるような教育が少し足りないのではないかと考えています。次に、古典についてです。古典も光村図書が一番優れていると思います。漢詩は、光村図書の2年次に「漢詩の風景」という教材があります。これを書いているのは石川忠久さんという方ですが、二松学舎大学の元学長で名誉教授、全日本漢詩連盟の会長であり、ラジオの漢詩講座を長く務めていた、この分野では第一人者です。また、素晴らしい北京語を話します。そういう方の書きおろし文によるものなので、「漢詩の風景」が実際見ているように感じられます。俳句に関しては、教育出版がとても良いと思います。新しい斬新な俳句を扱っていて、解説は堀本裕樹さんです。三省堂は夏井いつきさんの解説です。どの教科書会社も自由律や季語のないもの、種田山頭火や尾崎放哉、それらを扱っているのは良いと思います。現在、俳句はグローバルで、特に世界的に注目されている分野で、多くの国の方が俳句を作っています。文学作品の選択でも、教育出版は大変優れていると思います。川上弘美、あさのあつこ、村上春樹も扱っています。最近では、いわゆる文豪の作品があまり扱われなくなっている印象があります。夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介等の文豪の作品を全ての学年で扱っているのは、東京書籍と教育出版です。光村図書では、資料の中も含めると全部を扱っています。明治の文豪の作品の場合は、教材として扱うのは難しいと考えられます。例えば、「坊っちゃん」などは一部分の掲載です。一部抜粋することが良いかどうかについては、意見が分かれると思いますが、教科書という性質上、しかたないのかもしれないかもしれません。光村図書は、読書のコラムが良いです。例えば、鴻巣友季子さんの「分からないは人生の宝物」という、翻訳文学に関して書いている部分があります。これは、翻訳作品を読み比べたときに必要になり、ヒントにもなります。読書コラムは、1年

で宮崎駿さん、2年で鴻巣さん、3年、森絵都さんです。また、翻訳作品を読み比べてみようという教材があり、翻訳が多数出ている「星の王子さま」については、内藤濯と池澤夏樹の作品が書いてありますが、まずその翻訳本を読んでいるか、大人でも読み比べるというのはなかなか難しいと思います。その他にも、教科書では扱っていませんが、倉橋由美子の翻訳本もあります。一時期翻訳本の読み比べが流行したことがありましたが、それも一つの考え方だと思います。また、音声、文法に関しては、教育出版がとても優れていると思います。例えば、1年生の46ページの「英語と日本語の音声の違い」、260ページの「日本語の音声」というふうになっています。文法に関しては、「ら抜き言葉」、「言葉は記号である」等、これは言語学の基本であり、このことについて、詳しく分かりやすく書いてあります。光村図書は、アクセント、イントネーション、プロミネンスが16ページにあり、大変良くまとめて書いてありますが、現場で理解するのは難しいような気がします。幾つか申し上げましたが、私は教育出版の斬新さの捉え方に非常に魅力を感じますが、「教科書を学ぶ」のではなく、「教科書で学ぶ」という視点から、遺漏のない、全体的にまとまっている印象を受けた光村図書を第1に推薦いたします。

- **阿部委員** 私からは、ごく全体的な観点から申し上げたいと思います。結論は坂根委員と同じく、光村図書を推薦します。その次に、教育出版もなかなか面白いなと思います。先ほどの学習指導要領の3つの柱に留意して読み比べましたが、各社いろいろな題材を取り上げています。いずれもそれなりに国語力を高める工夫がみられましたので、授業でその中身をどのように使うかということが重要だと思いました。特に重視した点は2つです。1つ目は、読書活動への連携をどう図っていくか、2つ目は、古典、日本文化の扱いをどうしていくかです。まず、読書活動への連携ですが、教材に表れるのは、文章の全体ではなくて、ある部分を抜き出していますので、その抜き出した部分の分析、解釈も重要ですが、作者や登場人物の足跡、活動、あるいは価値観などを学んでほしい。その題材としての、スタートラインとして教材があると考えます。そのため、子どもたちにはいろいろな本に親しんでもらいたいと思っています。「墨田区子ども読書活動推進条例」の趣旨を踏まえ、読ませたい教材、あるいは名作や著名な詩歌など、それらをどのように読書活動につなげていくかという点を重視しました。次に、古典、日本文化の扱いですが、古典や日本の四季とか伝統文化を通して、今の私たちの生活習慣や国柄、あるいはグローバル化に向かって、それぞれ自分のアイデンティティーを確立してほしいと思いますので、古典とか詩歌をどう取り上げて日本文化を学ばせていくのかということを重視しました。個々のいろいろな中身については、先ほど坂根委員が詳しくお話しされたので省略しますが、私が光村図書あるいは教育出版を推薦した3つの視点を申し上げたいと思います。1つ目は、取り上げている著名な作品について、2つ目は古典をどう扱っているか、3つ目は読書への誘因をどう図っているか、この3点から申し上げます。夏目漱石や森鷗外、芥川龍之介、太宰治、魯迅等、著名な作品については各社大きな違いはないと思いますが、私個人としてはぜひ、本区出身の芥川作品を深く取り上げ、学んでほしいと思っています。教育出版の本は、比較的注目されている気鋭の作家、内田樹とか村上春樹を意欲的に取り上げていて、新しさがあるなと感じました。次に古典の扱いについては、かねてより光村図書が非常に優れているなと思っていましたが、各社とも古典をかなり重視しているようで、大きな違いはあまり感じなくなった印象です。ただ、や

はり全般的に光村図書が良いのかなと思いました。特に3年次で各社とも取り上げている万葉集、古今集、新古今集の中で、古今集の紀貫之の序文を取り上げて詩歌を鑑賞するというような箇所がありまして、令和という元号も万葉集が出典元ということもあり、ぜひ和歌の神髄に深く触れてほしいなと思いました。そのほかにも、四季折々の和歌や俳句、あるいは季節感を表すような事柄も光村図書あるいは教育出版が取り上げていて、これはなかなか良いと感じました。次に、読書の誘因ですが、各社とも読書の広場とか私の本棚等のコーナーなどがあって、題材に関連する本、あるいはお勧め本を紹介しています。ほとんど題名の紹介に近いものもあれば、詳しく内容を紹介しているものもあります。その点、光村図書はかなり本の内容を詳しく紹介していて、子どもたちに関心を持たせながら読書へつなぐ点が優れていると思いました。以上のような点を総合して、全体的にレベルが高くてバランスが取れていること、古典の扱いや漢字の学習、あるいは読書活動への誘因という点でも優れていること、現在、本区の学習状況調査では国語の結果が大変良いので、今使用している光村図書をさらに使いこなしてほしいという点からも、光村図書を推薦したいと思います。

- **浅松委員** お二人から光村図書の推薦がありましたが、私も光村図書の教科書がふさわしいと思います。私が特に注目したのは、今回新たに設けられました情報の扱いです。教科書をすぐ開けば、どの学年も、最初のページに思考の地図というものが特設されております。いろいろな教材の大切な部分を分析して、根拠に基づいて思考、判断していくという論理的思考や、情報活用能力が鍛えられるという趣旨があると思います。情報を正しく読み取るための思考のステップ、課題、仮説、検証という思考の整理や、その表現等が分かりやすく説明してあります。情報に対して正しく精査・分析していく、そして論理的な思考に結びつけるという考え方は、国語ではもちろん、他教科、あるいは身近な生活にも大いに活用できる、そういった優れた教材の基礎になると思っています。これからの情報発達社会では、適切な情報をいかに取捨選択して、自分の意見をしっかりと主張して、確実に相手に伝えていく力が大切になると思います。これから子どもたちが自らのアイデアを授業で、あるいはいろいろな場面で見いだせる、そのような学習の取組に期待していきたいと思いますので、その核となる国語の教科には期待しています。
- **坂根委員** 文学作品についてですが、1年生はヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」、2年生は太宰治の「走れメロス」で、3年生が魯迅の「故郷」ですが、走れメロスは別として、ヘルマン・ヘッセも魯迅も作家自身の生きた時代的な背景とか、哲学などが関わり、取扱いが結構難しいです。また、私の知る範囲ですが、ドイツや中国の学生に聞いても、ほとんど読んでいません。でも、留学生のほとんどが読んでいる作家が村上春樹です。村上春樹は、先ほど阿部委員もおっしゃっていたように、教育出版が取り上げています。なぜ村上春樹人気がグローバルかという視点も考えて取り上げることも必要かなと感じております。
- **教育長** それでは、国語科について採択をします。国語科の教科用図書は、光村図書出版株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、国語科の教科用図書は、光村図書出版株式会社を採択することに決定いたします。次に、書写について審議いたします。事務局から説明をお願いします。
- **指導室長** 書写の指導事項は、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の

能力を育成することが重要となります。特に、我が国の伝統的な文字文化を継承し、これからの社会に役立つ様々な文字文化に関する「知識及び技能」について理解し、文字を効果的に書くことができる力を育成することが大切であるとされています。書写につきましては、現在使用している教科用図書は、「光村図書出版株式会社」でございます。全4者からの採択をお願いいたします。

- **教育長** それでは、書写の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願います。
- **坂根委員** どの教科書会社にも共通して言えることですが、書写はどの会社もすばらしくよくできていると考えます。優れた文字文化をもって、それに慣れ親しんでいる生徒にはとてもふさわしい内容だと言えます。一生できる貴重な手本、用例にもなっていると考えます。結論から申し上げますが、光村図書を推薦します。理由は、構成が簡にして要を得ていて余分なことがないということです。また、光村図書は項目ごとに構成されています。他社は学年ごとです。学年ごとの方が現場は使いやすいかもしれませんが、手元に置いてちょっと見たりする、使ったりすることも考えると、項目ごとに構成されている方が適していると思います。書くときの姿勢や筆記具の持ち方や片付けまで、小学生時の学習から続いて漏れなく書いてあります。また、学習指導要領にある楷書と行書の使い方が、2年生の教科書86、87ページにあります。各社それぞれ書いてありますが、光村図書は情報が多過ぎない点を私は評価いたします。もうひとつの推薦のポイントは、日常に役立つ書式についてです。現在、社会生活における手書きの重要性は減少しています。各社、年賀状、往復はがきの出欠などを実践という形で扱っています。光村図書は書写ブックというものがあり、切り離しできるようになっています。また26、27ページに年賀状を書こうという教材があり、住所等をなぞるようにになっています。さらに、年賀状と同じ大きさの用紙があり、練習ができます。このまま切って年賀状を書き、切手を貼って郵送することができます。このような実践がこれから社会に出ていく子どもたちには役に立つと思います。また、はがきの出欠の返事について、「ご出席」の場合は「ご」を消して出欠を丸で囲う、その後に、「します」添えるという形は光村図書です。三省堂は「いたします」、他社は「させていただきます」となっていますが、最近、「させていただきます」という言い方がビジネスではよく使われていますが、使い方を間違えると慥無礼にもなりますし、威嚇的な表現にも聞こえます。また、職場体験について手紙を書くという教材があります。職場体験を受け入れてくださったことについてのお礼の手紙です。手紙の例文が「職場体験に伺ったとき」「職場体験を受け入れてくださった」という表現ですと中学生らしいのですが、「訪問させていただくことになった」「見学させていただく」「質問させていただく」等、「いただく」を多用すると、中学生としての範囲を超えて、マニュアル的になり、あまり丁寧な言い方とは思えなくなるのではないのでしょうか。最後に、特出すべき点が、東京書籍と三省堂にあります。東京書籍は「手書き文字と活字の字体の違いについて」、三省堂は「活字と手書き文字の筆順について」です。これらは『公用文の書き表し方の基準』にあります。このような基本的なものには、なかなか触れることがありません。こういう視点を示すことは非常に有効だと思います。今後、できればこれらの出典も明記していただきたいと思います。
- **阿部委員** 私も光村図書が良いと思いました。国語の教科と併せ、日本の文字文化、あるい

は漢字文化を理解する前提として、まず文字を正しい書き方で学ぶ必要があると思います。どの教科書も基本的にその内容を押さえていると思いますけれども、光村図書が全体にバランスが取れて、落ち着きがあり、基礎、基本を分かりやすく教えていると思いました。私が光村図書が良いと思う点を幾つかお話ししますと、1つ目は、筆の持ち方や姿勢、書き順や力の入れ方などについては、朱筆でうまくその濃淡を表していることです。また、「スー」「トン」というような音にして、動きにアクセントをつけてうまく教えているという印象を受けました。2つ目は、光村図書は各所にQRコードがついていて、動画を見て実習することもできるので、とても分かりやすいと思いました。3つ目は、日常に役立つ書式という部分でも、他社それぞれ工夫していますが、光村図書は基本的なところを押さえ、シンプルですが、必要にして十分な内容が網羅されていると思いました。4つ目は、国語で光村図書を採択しているので、古典など国語と同じ題材を書写で扱うため、関連性もあって良いのではないかと思います。最後に、大きさですが、三省堂と光村図書がB5版で、東京書籍と教育出版はA4版で、机に置いて広げて、お手本を見ながら書くと少し大きいかなと思いました。サイズの点からも光村図書が良いと思います。

- **教育長** 私も光村図書が良いと思います。私が評価したのは、筆の使い方についてです。阿部委員がおっしゃったように「スー」「トン」という表現や、筆の角度、筆の様子が表れています。子どもたちが「手本どおりに書けないのはどうしてかな」と思ったときに、「確かめよう」というところで、丸みを帯びた字や、直線的な字について、筆の角度や、筆を倒していく様子が詳しく書いてあります。そういった点からも、先生だけではなく、子どもたちが自分で工夫できる余地もあると考え、光村図書を推薦したいと思います。それでは、書写について採択をします。書写の教科用図書は、光村図書出版株式会社を採択することにししたいと思います。ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、書写の教科用図書は、光村図書出版株式会社を採択することに決定いたします。次に、社会科（地理分野）について審議いたします。事務局から説明をお願いします。
- **指導室長** 社会科においては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野において、それぞれの特質に応じた視点の例や、視点を生かした考察や構想（選択・判断）に向かう「問い」の例などが整理されてきました。単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが重視されています。地理的分野では、世界と日本の地域構成に関わる内容構成、地域調査に関わる内容構成の見直し、世界の諸地域学習における地球的課題の視点の導入、日本の諸地域学習における考察の仕方の柔軟化、日本の様々な地域の学習における防災学習の重視などが改訂の要点となっています。社会科（地理的分野）につきましては、現在使用している教科用図書は、「東京書籍株式会社」でございます。全4者からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、社会科（地理的分野）の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしくお願いいたします。

- **浅松委員** 結論から申し上げますと、墨田区の中学生にとって最もふさわしいのは、帝国書院だと考えます。まず、教科書を見ていただくと分かるのですが、巻頭7にある「地理的な見方、考え方」は、今回の学習指導要領の改訂で重要な視点ですが、写真やキャラクターで分かりやすく親しみやすく、次ページの「地理的分野の学習の全体像を見通そう」で図式化されています。一目で社会科の全体の学習が見渡せます。さらに、その下に、これは私が注目しているのですが、「学習の始めに」というコラムがあります。量は多くはないのですが、地理的な見方、考え方で、身の回りの様々な課題解決に向けた取組をSDGsの視点で、より良い地域、日本、世界の発展を目指そうというような地理学習の大切さにも触れていて、非常に説得力があると思います。次に、教科書に記載されている地図や図表も各社比較してみましたが、本文の文字も見やすく、その点も帝国書院が良いと思いました。次に、今回の学習指導要領の改訂で、地理の学習にとって具体的な作業を通して地理的な技能を身につけていくという点、これがとても大切ですが、調査の手法や手順を最も分かりやすく説明しているのが帝国書院だと思います。130ページから140ページに、この単元の具体例として、東京の練馬区大泉地域を筆頭に挙げています。同じ東京の23区ですから、墨田区内の中学校が、学校周辺の調査をする際に、とても参考になると思います。また、130ページには、小学校で学習したことを本文の中に取り上げています。小学校との関連も含めて、中学校での地域調査の在り方、小学校とは視点が違うことを説明しています。特に調査テーマと仮説の立て方として、調査方法などが分かりやすく書かれています。また、地形図の使い方について、帝国書院の場合は「技能をみがく」というコーナーの中に書かれています。地図の見方の次に地理的特色の勉強をしていくことになっており、主題図の見方にも大変役立つ構成になっていると思います。次に、首都東京について見てみたいと思います。東京についての記述を比べてみた場合、東京を捉える視点はどこもほぼ一緒なのですが、東京に関する地理的事象を取り上げている箇所数というデータがあります。大体103～104箇所ですが、帝国書院は118箇所あります。その点からも他の教科書に比べて、東京について多くのページを割いて記述されていることがわかります。240ページの「多くの人々が集まる首都、東京」のところからですが、日本の首都東京、世界都市Tokyo、交通網の中心となる東京、また、244ページ、ICT関連産業東京など、最近の産業の傾向も含めて進化する東京について記述があります。次に、東京一極集中のページですが、写真や図の見やすさも、帝国書院が優れていると思いました。「節の学習を振り返ろう」の第5節に「関東地方」のまとめがあります。250ページ、251ページが例として挙げられますが、学んだこと、知識、技能の確認と、地理的な見方・考え方を伸ばす上で、作業内容がとても分かりやすく、課題解決能力を育成する点からも、大変良い教材だと思っています。次に、必ず地理の学習でも取り上げる世界の気候についてです。世界の気候の特色をつかむ重要な手がかりとなるのが、雨温図です。帝国書院、東京書籍、日本文教出版は、各気候帯の都市の雨温図を東京の雨温図と並べて比較できるように掲載されています。同じ気候帯でも、複数の気候区のある代表都市が示されていない教科書会社が多いのですが、帝国書院は29ページに世界の気候帯と雨温図が併記されていて、地図帳等を活用すると、かなり深い学びにつながると思います。教育出版だけは、他社のように東京の雨温図は載せずに、気候帯の全ての雨温図を載せ、世界地図で都市の位置を示しています。多くの情報を見やすく記載している点が、評価できます。なお、教育出版は東京都との

比較は、46ページの学習のまとめのところに記載されています。最後に、「地域のあり方」の単位についてです。SDGsの開発目標は17項目あります。その中の「住み続けられるまちづくりを」の視点で、住みやすくより良い地域をつくるためにはどうしたら良いのか、私たちの地域で優先して解決すべき課題は何なのかということを考えて学習する単位です。帝国書院は京都を取り上げています。他の会社でも取り上げていたと思いますが、このSDGsの考え方の視点というのは、自分の地域だけとは限らず、逆に自分の地域から他の地域に置き換えて、課題を掘り下げていくということが大事だと思います。京都は多くの生徒が修学旅行で行く場所です。墨田区の中学生在が京都市の立場に立って、地域をどう発展させていくのかということを勉強していくことはとても大切だと思います。以上のことから、私は帝国書院の教科書を推薦したいと思います。

- **阿部委員** 帝国書院か東京書籍が大分迷いまして、最終的には東京書籍を推薦したいと思います。中学校になると、地理的な分野の学習で、いろいろな新しい用語や概念、資料やデータなどの情報量が、小学校と比べて格段に増えてくると思います。地理は、言葉やデータなどを暗記するような学習だと思われがちですが、実際には、国内外のいろいろな風土、文化、産業などに基づいて、経済情勢や、災害、紛争などいろいろな事象を写真やデータで読み込みながら、今起きている実際の世の中の変化というものをダイナミックに学んでいく面白さというのが本質ではないかと思っています。難しい言葉に迷わされないで、分かりやすく系統立った学習、そして、地図や資料を読み込みながら自分で分析して考えるというトレーニングが必要になると思います。各社とも資料や地図などを見ながら、自分で考えたり議論したりする課題解決型の学習ができるように工夫されており、また、いろいろな写真やイラスト、図版などを載せていますが、この点で、帝国書院と東京書籍は比較的情報量が多く、説明も分かりやすいという点で、両者甲乙つけがたいなと感じました。そこで、私が比較したポイントが幾つかあります。1点目は、領土、領海をどう扱っているか。2点目は、地震や風水害などの自然災害と防災をどう扱っているか。3点目は、資源やエネルギーに関して、海洋資源が注目されていますので、そういう意識を子どもたちにつけてもらいたいということです。また、今後の地球的な課題であるSDGsが、かなり子どもたちにとっては重要な課題になると思いますので、このSDGsにどのように触れているかというポイントから各社を比較しましたが、東京書籍と帝国書院が分かりやすいと思いました。東京書籍は、各章の終わりに、「地理プラス」というコーナーがあり、そこで話題となるようなテーマを深める工夫がなされています。また、地域の在り方のところで、東京書籍は、持続可能な社会、SDGsを詳しく説明している点も評価したいと思います。総合的に考え、両者を比べた場合に若干、帝国書院は資料や説明が入り組んでいる印象を持ちましたので、東京書籍の方が分かりやすいと感じたことから、東京書籍を推薦します。
- **白石委員** 私は帝国書院が良いと判断します。先ほども浅松委員がおっしゃっていましたが、巻頭の部分を見ることで、生徒たちがまずどういうことを学んでいくのかという見通しがつきやすいのかなと思いました。子どもたちにとっても、この見え方がスムーズなのではないかなと感じています。また、情報量と写真の見え方というのが私にとってはすごく良いなと感じました。授業を受ける子どもたちは、文章はもちろんですが、写真や絵についても非常に興味を持って見るところだと思います。帝国書院がその部分に関しては、他社に比べると、

いろいろな情報や、写真が多く掲載されていると思いました。

- **坂根委員** 私も帝国書院を薦めたいです。理由の1つ目には、いろいろな視点で適切に記載している、ということです。帝国書院の113ページの共生というところに、「ブラジルに渡った日系人」という教材があり、多様な民族、文化、人々の生活の中で取り上げています。この短い中に、歴史から現在の様子までが全部書いてあり、非常に分かりやすいです。東京書籍では「南アメリカで活躍する日系人」について92ページに書いてあります。これはこれで良いところがありますが、帝国書院のように、民族、文化、その成り立ちと言う流れの中で取り上げることに意味があると考えます。次に、帝国書院の78ページに外国人の移動について記載があります。上段に、「ハンガリーからドイツに移住した人の話」が出ています。「移民」ではなく、「移動する」ということが特にヨーロッパでは中心に考えられていると示しています。EUのことにに関して、こういう視点を取り上げているということは良いことだと思います。また、帝国書院は略地図の書き方についての教材があり、このような分かりやすい書き方は、学んで損はないと思います。帝国書院の欠点は、55ページの中国の地名のことです。「シャンハイ」「ペキン」「シェンチェン（深圳）」がカタカナ表記ですが、中国では日本語を漢字で書いてから現地音で読むことをします。外国の地名を漢字で書いてはいけないということはないので、漢字と現地音との併記を望みます。例えば、帝国書院の48ページには、カタカナの「シャンハイ」の後に括弧書きで漢字が書かれているようにです。このように漢字表記も加えて記載することが必要ではないかと考えます。
- **教育長** 私も帝国書院を推薦します。資料や写真が豊富で、説明がわかりやすく記述されています。また、「確認しよう」「説明しよう」や「節の学習を振り返ろう」「章の学習を振り返ろう」などで理解のアウトプットができる点も良いと思いました。東京書籍も、基礎的な知識の定着に配慮されていて、学習しやすいと思いましたが、データや図の量や見やすさ、またアウトプットのしやすさという観点から帝国書院を推薦します。阿部委員は、東京書籍を推薦していて、今の段階では、帝国書籍の推薦が多い状況ですが、その点について何かご意見はありますか。
- **阿部委員** 帝国書院でも全く異存はありません。地理が好きな方はいろいろな知識を深めることができると思います。すべての生徒が帝国書院を使いこなせるかが、やや心配な点です。
- **教育長** それでは、社会科（地理的分野）について採択をします。社会科（地理的分野）の教科用図書は、「株式会社帝国書院」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
（「異議なし」の声あり）
- **教育長** それでは、社会科（地理的分野）の教科用図書は、株式会社帝国書院を採択することに決定いたします。議事の都合により、ここで教育委員会を一旦休憩します。なお、再開は10時55分とします。

（休憩）

- **教育長** それでは、教育委員会を再開します。次に、社会科（歴史的分野）について審議をいたします。事務局から説明をお願いします。

- **指導室長** 歴史的分野では、歴史について考察する力や説明する力の育成や我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実、歴史的分野の学習の構造化と焦点化、主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどや様々な伝統や文化の学習内容の充実などが改定の要点となっています。社会科（歴史的分野）につきましては、現在使用している教科用図書は、「株式会社帝国書院」でございます。全7者からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、社会科（歴史的分野）の教科用図書について、委員の皆様のご意見をよろしく願います。
- **浅松委員** まず、歴史的分野の学習指導要領の目標を確認しておきたいと思います。歴史的分野の目標（1）では、「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。」とあります。ここで注目したいのが、学習の中心が、我が国の歴史の大きな流れ、その理解ということを重点にしています。同時に、世界史の歴史の扱いが、これを踏まえるべきものだという関係と位置づけが明確です。世界の歴史は、これまでも我が国の歴史と直接関わりのある事象を扱うとされてきましたが、今回の学習指導要領の改訂では、我が国の歴史に間接的な影響を与えた世界の歴史の学習についても充実させることとなっています。これによって、時間数も多少増えているということ、世界史が高校では必修でなくなり、歴史総合になるので、その点を踏まえて意見を言いたいと思います。間接的な影響を与えた世界の歴史という点は、日本にとっても大事なところで、1つ目は、ギリシャやローマの文明、2つ目は、中世の元寇、モンゴル帝国の襲来、その背景としてユーラシアの変化があります。3つ目は、ヨーロッパ人来航とムスリム商人の役割などと世界の結びつきという点等が挙げられます。学習指導要領の大項目、イ以下全て、全ての中項目の文頭に、課題を追及したり解決したりする活動を通し、という文言が必ず明記されています。この点はしっかりと押さえておくべきではないか。つまり、課題解決的な学習活動で習得した知識、理解をどのように活用して、何のために生かしていくのかということをつまみながら、歴史の学習を行っていくべきだと思います。以上、改訂の趣旨を押さえた上で教科書を見ていくと、墨田区の中学生にとって最もふさわしいと考えたのは、東京書籍です。新しい歴史、過去の歴史、世界の中の日本の歴史で、時代の流れの中で学び、世界の課題の中で、今の日本がどのようにつくられてきたかということ、それを理解した上で、これから未来に向かって持続可能な社会をつくっていくかを考えるというような、社会科の学習の目的、これを他社と比べると、特に明確に押さえていると思います。歴史を理解すると同時に、現代的な諸課題を歴史の視点から見つめ直すための教科書であるということに共感できます。東京書籍の巻頭3に「持続可能な社会の実現に向けて」という2ページにわたる教材があり、その4に「花火の見物客でにぎわう両国橋」の紹介があります。多くの人が橋の上でにぎわっている五雲亭貞秀の三都涼之図です。実は、明暦の大火の後に、江戸幕府が避難経路として両国橋を造りました。そのことも説明されており、火災に強いまちづくりという視点を見事に捉えています。SDGsを歴史から学ぶことができ、そのうちの1つが中学生にとって身近な地域であり、これは非常に生かせる教材だと思います。ちなみに、SDGsの11の開発目標、「住み続けられるまちづくりを」と関連させて説明されています。もう1つ地域に関連した

項目が244ページです。「東京大空襲の記憶を伝える」ということで、大きく2ページにわたって、東京都台東区、墨田区のことを書かれていますとともに、すみだ郷土文化資料館での調査が取り上げられています。墨田区の中学生にとって、すみだ郷土文化資料館は身近な存在だと思います。また、中学生が地元出身の星野光世さんから話を聞いている写真があります。星野さんは、親と兄弟2人を亡くされた方で、そのお話も載っています。地域に密着した教材だと思います。そのほか、教科書の単元、学習項目の勉強の仕方が、単元の導入からまとめまで、学習の手順が構造化されています。また、各章の導入の部分には、探究課題があります。この探究課題を各節ごとの探求のステップに従って解決していきます。それぞれ学習課題は左ページにあり、それに対して、チェックアンドトライ形式で、本文から関連事項を抜き出し、最終的には説明させていく流れがあります。また、それぞれの章末に、基礎、基本のまとめや問題に取り組み、それらの中で知識、理解を深めることができます。隣には探究のステップが節ごとにあり、それを基に最終的に章の探究課題を解決していくという学習のスタイルです。導入からまとめまでの手順が大変分かりやすいと思います。次に、冒頭申し上げました世界史との関連ということかというと、山川出版も注目していました。実際にこの教科書の年表の配置や、あるいは章の扉の部分の真ん中の上段に日本史、下段に世界史の帯が載っているところも良いと思います。山川出版で特出する点は、確か2世紀、8世紀、13世紀、16世紀、18世紀の5箇所世界地図をイラストで紹介しています。それが非常に分かりやすく、当時の世界の様子を体感できる、すばらしい教材です。これから更に改善を行っていくと思います。他社にも言えることですが、以前に比べて全体的に内容が充実し、生徒が主体的に学び、考えを深めていけるような、工夫・改善の努力がうかがえます。最終的には、全体のバランスを見て、東京書籍を推薦したいと思います。

- **阿部委員** 私は、1番目に山川出版を推薦したいと思います。2番目には育鵬社が良いと思います。自分の学生時代を振り返ると、歴史は、試験のために様々な事象や年号を暗記する勉強で、こんなことを一所懸命覚えても何の役に立つのだろうかと思ったことをよく覚えています。しかし、世の中に出てみると、歴史の勉強はすごく奥が深く、こんなに面白い学問はないと思うようになりました。歴史を学ぶと、それぞれの時代の先人の考え方や歩みが分かりますし、今の事象を考える上でのヒントが多く埋もれていることに気づきます。このことから、ぜひ墨田区の子どもたちには、暗記も必要ですが、歴史は奥が深くて面白い勉強なのだという事に気づいてもらえたらと思っています。このような観点から、各社について「古代」、「中世」、「近世」、「近現代」と、時代ごとに分けて見比べてみました。全体的な印象を申し上げますと、山川出版は浅松委員がおっしゃったように、世界史的な視野から時代ごとに世界史と対比して、日本で同時期に何が起きているかを意識させている点が大きな特色だと思います。さすが歴史の本を専門に扱っている出版社だと感心しました。記述が正確で内容も細かく、特に近現代ではいろいろな写真が載っていて、とても興味を引く内容だと思います。一方で、育鵬社は情報量としてはそれほど多いわけではなく、平均的な内容だとは思いますが、歴史が好きな私が読んでいて面白いと感じました。例えば、「なでしこ日本史」では女性の切り口から時代を見たり、あるいは「歴史にズームイン」というコラムだったでしょうか、様々な題材を深めていく工夫があり、読んでいて大変面白いと思いました。総合的に考えると、やはり山川出版が一番情報量が多く、魅力を感じます。ただし、こ

れだけの内容を限られた授業時間の中でどこまで教え切れるのかという懸念はあります。育鵬社は読んでいて面白いですが、やはり内容的に濃淡があります。詳しく掘り下げているところと、比較的さらっと流しているところがあるような気がします。そういう意味では、教員は使いにくいのではないかと懸念があります。先ほど、東京出版というお話もありました。東京出版もよくまとまっており、ニュートラルな立場でバランスが取れているという印象を持ちましたが、歴史に興味を持ってほしい私の立場としては、少々平凡というか、もう少し歴史への興味を引き出すようなプラスアルファの点があればという印象を持ちました。個人的な思い入れもありますが、墨田区の子どもたちが歴史を好きになってもらいたいという思いから、山川出版を推したいと思います。

- **坂根委員** 私も山川出版を推薦します。その理由は、まず、記述が正確で説明に余分なところがない点です。また、概念の説明もはっきりしています。例えば、山川出版は日本の植民地について200ページに、「植民地（コロニー）という言葉は」として言葉の意味の説明があり、「コロニー」という言葉も載せています。今でも南米の日系社会では、コロニアという言い方を、入植した日系人が使っています。それもコロニーが語源となっています。概念の説明が正確であると、いろいろな歴史の考え方、見方が広がると考えています。また、1872年、明治5年に公布された「学制」の序文が山川出版の173ページに載っています。学制が公布されたということ、日本の教育制度ができたということ、これは各社書いてあるのですが、山川出版では、授業料が家庭の負担だったことや、女子の就学率は低かったこと、建設費が地域の負担で行われたということも書いてあります。このことは、教育に関連するところとしては、非常に必要な視点ではないかと思います。さらには、出典や扱いが非常に正確だと思います。例えば、東京書籍の235ページ、日本の太平洋戦争の開始ということで、日本とアメリカの国力について、人口の1人当たり国民総生産（GNP）等について記載されています。これに対して、山川は244ページの左上に、日米間の国力の比較ということで、国民総生産、航空機生産量、石油の産出量、軍需予算、人口等とても詳しく書いてあります。出典は同じだと思いますが、出典の書き方が東京書籍は山田朗『備拡張の近代史』、山川出版は、山田朗『軍備拡張の近代史』による、となっています。この場合「～による」と書く方がより正確です。なぜこのようなことを言うかと申しますと、今、対面授業が難しい状況にあって、「内容が正確である」ことの重要性が高まっているからです。また、山川出版の267ページに外務省ホームページのQRコードがあります。外務省のホームページを開くと、更に詳しい情報が載っています。情報が多様化しているときに、どういうものを選ぶか、この外務省のホームページを見れば良いのだというように判断することで、自律的な勉強のきっかけができればと考えています。次に薦めるのは、帝国書院です。面白い教材があります。例えば、188ページの「多角的・多面的に考えてみよう」の中江兆民の「三酔人経綸問答を考察する - 三人の人物が日本の行く末を徹底討論！ -」です。原文がとても難しいものなので、教材として取り上げているのは興味深いです。また、女性の権利、女性参政権について215ページに詳しく書いてあります。例えば、新渡戸稲造の妻メアリのことや、社会に羽ばたく女性たちというコラムの中に、最初に女性が参政権を獲得したのが1893年のニュージーランド、次に1917年のロシア（ソ連）、スイスは1971年であること等が詳しく説明されています。さらには、230ページと231ページには「母性保護論争を考察する」という教材があり、与謝野

晶子と平塚らいてうと山川菊栄が取り上げられています。与謝野晶子は、日露戦争の際に歌った「君死にたまふことなかれ」のことしか載っていないところが多いのですが、違う視点でまとめているのが帝国書院だと思います。

- **白石委員** 私は東京書籍が良いと思います。左下のページの中に学習している時期を示す年表があります。歴史の流れを生徒たちが学習中に確認できるところが良いと思います。ページの右下には、学習課題を解決するために学習の最後に取り組む課題、チェックアンドトライがあり、具体的な問いで振り返らせて、自分なりの短い言葉で表現させる取組は効果があると考えます。先ほども話に出ましたが、244ページ「東京大空襲の記憶を伝える」は墨田区も扱われています。東京大空襲、戦後学習や平和学習はとても大切なことです。墨田区の生徒にとって身近で発生した問題として、墨田区での東京大空襲などを調べさせる学習設定は、とても大きな意味があると考えます。このような点を考えると東京書籍が良いのではないかと私は考えました。
- **教育長** 私は東京書籍を推薦します。理由は、歴史を勉強するときに、今どの時代を勉強しているのかは、年表を繰り返し見ても定着できないと思いますが、東京書籍は、単元の各ページに年表と一緒に記載されていて、どの時代の学習なのかについて子どもたちに分かりやすい。また、基礎、基本のまとめがあって、語句の説明や記述問題もあり、アウトプットが非常に充実していて、記述やアウトプットの仕方について、子どもたちに教えよう、定着させようという流れになっています。また、墨田区の子どもたちは、社会科の成績が徐々に上がってきている状況があります。「墨田区学力向上新3か年計画（第2次）」では、家庭学習の充実の重要性について書いていますが、家庭学習を充実させるためには、例えば、歴史を予習するときに、打製石器の単元について、東京書籍は「打製石器で石を打ち欠いて鋭い刃を持つ」と書かれており「鋭い刃」と記載されています。ほかの出版社では「石を打ち欠いてつくった」というように、「鋭い」という記述がありません。写真は載っているのですが、特徴である「鋭い刃」については触れていません。子どもたちが家庭で予習するときに、教科書を読んで特徴を正しく理解することができるのは東京書籍の記述だと思いました。また、世界史の十字軍の単元について、東京書籍では、十字軍を初めて扱うときに、「十字軍を組織して」と書かれています。ほかの教科書では、「十字軍を呼びかけた」や「十字軍を派遣しました」等、十字軍が事前に存在していたかと、子どもたちが勘違いしてしまう可能性があると思います。「組織している」と明確に書いてある方が、予習するときも含め、学習するときにもふさわしいと考えます。また、開国後の政治と経済で使用している語句「尊王攘夷」では、教科書によって一つの論と読める可能性がありますが、この教科書では、二つの論であることが、はっきり記述されています。高校生であれば、教科書を読んでわからない言葉は自分で調べて活かすことができると思いますが、中学生では、文章の中にわからない言葉があると、憶えることになる傾向が強いと思います。授業中であれば、先生が教えることができますが、予習やふり返りを考えたときには、丁寧な記述が、非常に重要なことだと思いますので、東京書籍を推薦します。
- **浅松委員** 私も東京書籍を推薦したのですが、山川出版の教科書も、かなり細部にわたって書かれていて良いと思いました。東京書籍は限られた授業時間の中で、知識だけではなく、課題解決学習について明記され、授業デザインをする上で、いかにまとめ、アウトプットま

でできるかを考えたときに優れていると思います。山川出版では、例えば53ページで「10世紀初めの阿波国の戸籍」を取り上げて、「なぜ戸籍に女性や66歳以上の人が多いのだろう」という問いがあります。これはかなり興味を持って取り組めると思うので、すばらしい問いだと思います。また史料や図版、グラフについて、問いが何箇所もあり、実際にそれを自主的な学習の中で、発展的学習を求める生徒にとっては、非常に興味ややりがいがある課題だと思いますが、教える側としては、網羅的に授業を進めることは少し難しいと思いました。実際に教科書にある全てのものを教えるわけではないですが、ポイントを押さえ、取捨選択しながら授業をするという点や、課題解決学習ということ、全てではないにしても、取り入れながら授業を展開するという手順がはっきりと示されている分かりやすさからも、東京書籍の教科書を推薦したいと思います。

- **教育長** 山川出版の教科書は内容が充実していて、読んでいて面白く、魅力がありますが、少し難しいかなと感じるところもあります。歴史が得意な子どもにとっては良いと思います。ただ、アウトプットの点でいうと、東京書籍の方が工夫されていて、取り組みやすいという印象を受けました。阿部委員と坂根委員が山川出版を推薦していて、ほかの3人は東京書籍を推薦しています。何かご意見がある方はいますか。
- **阿部委員** 山川出版を読んでいるとだんだん興味が湧いてきて、さらにいろいろなことを調べたいなと学習を進めていくことができる印象を持ちました。東京書籍は、バランスが取れていて、確かに根底の骨組みがしっかりしているという印象はありますが、少し物足りなさを感じます。また授業でいろいろな時代をきちんと掘り下げるような話を先生方にしていただき、深い学びにつなげていただきたいと思います。将来的には山川出版レベルのものを扱ってほしいと思いますが、東京書籍を使用することについて異存はありません。
- **坂根委員** 私も東京書籍を使うことには異存はありません。ただ1点、先ほど教育長が発言していた十字軍のところで、「ローマ教皇の呼びかけに応じた西ヨーロッパ諸国の王族や貴族は、十字軍を組織して」という東京書籍の書き方は明確ですが、原因と結果が一緒になっていたり逆にいたりする記述がどの教科書、どの教科にも見られます。特に、歴史は微妙なところも扱っているので正確であるべきだと思います。基本的に山川出版は優れていて、高校での内容も含まれているところや、他の教科書会社では扱っていない内容も結構あり、面白さという点では、秀でていると思います。
- **教育長** 先ほど発言した打製石器のことですが、なぜその点をお伝えしたかという、次の時代に出てくる磨製石器につながっていくので、打製石器のことを学ぶときに鋭いという特徴をしっかりと説明することで、磨製石器の特徴やその違いについて、子どもたちが理解しやすくなります。それぞれの特徴を正しく理解することで、次の時代への理解度が高まります。それでは、社会科（歴史的分野）について採択をします。社会科（歴史的分野）の教科用図書は、東京書籍株式会社に採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
（「異議なし」の声あり）
- **教育長** それでは、社会科（歴史的分野）の教科用図書は、東京書籍株式会社を採択することに決定いたします。次に、「社会科（公民的分野）」について審議をいたします。事務局から説明をお願いします。

- **指導室長** 公民的分野では、現代社会の特色、文化の継承と創造の意義に関する学習、現代社会を捉える枠組みを養う学習、現代社会の見方・考え方を働かせる学習の一層の重視、社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて考察、構想したりする学習や国家間の相互の主権の尊重と協力、国家主権、国連における持続可能な開発のための取組に関する学習の重視、課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの一層の重視などが改定の要点となっています。社会科（公民的分野）につきましては、現在使用している教科用図書は、「教育出版株式会社」でございます。全6者からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、社会科（公民的分野）の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をよろしくお願いします。
- **阿部委員** 私は、育鵬社と教育出版の2社を推薦します。学習指導要領の改訂によると、公民的分野の学習の流れとして、政治、経済、国際的な社会の課題を学ぶことになります。勉強の仕方としては、導入に当たり、現代社会の特色として、少子高齢化、情報化、グローバル化などの問題を取り上げながら、現代社会の枠組みや、日本の文化の形成、あるいは家族や地域社会の一員としての自覚、そして社会生活における合意やルール決め方など、公民的な学習の意義を学ぶということになっています。このような基本的な学習の次に、日本国憲法の基本原則を考える。次に、民主政治とその仕組みを考える。そして、経済と生活を勉強する。最後に、国際社会の課題を勉強するという流れになっています。次に、公民学習の目的ですが、生徒が社会に出て自立していく過程で、世の中の基本的な仕組みやルールを学び、自分で考えて責任を持って行動する資質・能力を育成することになります。公民を学ぶ上で、年齢等を考えると、体系的な知識がまだ十分に形成されていない段階で、法律や経済の難しい用語が出てきたり、政治、経済に関する思想や理論に触れた場合に、どうしても戸惑いがあったり、苦手意識を持つようなことがあるのではないかと考えます。そこで、世の中の仕組みやルールがどういう目的や考えの基に出来上がっているのか、その仕組みの土台にある思想や価値観などがどういうものなのかということを中心に分かりやすく学ばせる必要があると思います。そこで、各社の教科書を拝見した印象ですが、それぞれ説明や情報の量には違いが幾つかあるんですけれども、おおむねやさしくて分かりやすいという点では、どの教科書を使用しても特に遜色はないと思います。その中で私が良いなと思ったのは、育鵬社と教育出版です。育鵬社に関しましては、情報量が特に多いわけではないですが、読んでいて説明が比較的読みやすいと感じました。また、3ページに「なぜ公民を学ぶのか」という資料があり、スタートラインのところで公民を学ぶ意味を分かりやすく図示して説明しているという点が良いと思いました。特に歴史と地理などを学んだ後に公民を学ぶことになるとしますので、歴史の時間的な流れを縦軸、地理の空間的なつながりを横軸として、これから学ぶ公民が、どのように関連しているのかということを分かりやすく図示しているのが、非常に分かりやすいと思いました。もう1点は、本文のそれぞれの課題の各章のところで、地理と歴史の関連をその都度、具体的にどこと関連しているかということを示しているところが良いと思います。また、現代社会や国際関係で話題となる事項を積極的に取り上げている点も良い点だと思います。教育出版の良いところは、比較的説明がやさしいということと、小学校で学んだ事項や地理、歴史の関連を欄外に明記していて、これまでの学習とどうつながっているのかを意識させている点です。特に面白いと思ったのは、各項目がSDGsの

どの項目に関係しているのかという点も明記していて、今後勉強する上で参考になると思います。個別の問題で幾つか両社を比べましたが、育鵬社は情報量はそんなに多くありませんが、領土、領海については詳しく説明が載っています。ただ、領土、領海に関しては、資源とエネルギーの問題にあまり触れていない点が少し不満な点として残りましたが、子どもたちに問題意識を持たせて、日本あるいは日本の内外で起きている現代社会の問題、例えば領土問題、国際人権課題、拉致問題とか、子どもたちが新聞や報道で接する問題を意欲的に取り上げて、現代社会の動きを勉強するような方向性が感じられるので、大変工夫しているなと思いました。ただし、少し心配な点としては、このような現代的な問題をどこまで踏み込んで授業で学ぶことができるか、全体的な知識が十分つく前に問題提起があると消化不良になるのではないかという点は、先生方の使いやすさという視点からは懸念材料です。教育出版の方は、内容的に少し物足りないと思う点がありますが、とても全体的なバランスが取れていると思います。そして、領土問題、拉致問題にもある程度触れています。また、今後話題になると思われるSDGsの問題をしっかりと取り上げていることが大きく評価できると思います。なお、今使用している教科書が教育出版ということも評価した点の1つです。教育出版でぜひ補足してもらいたい点は、メディアリテラシーの記載です。公民で当然勉強するであろう新聞やメディアの情報を、子どもたちが取捨選択して自分の意見を形成するという点に関しては、少し記載が足りないところがある印象を持ちました。その点は授業で補ってもらえれば十分、教育出版も良いなと思います。以上のことから、2社を推薦したいと思います。

- **浅松委員** 公民的分野ですが、阿部委員も挙げていました教育出版がふさわしいと思います。公民は、地理、歴史に比べて、現代社会というのをテーマにしながら、SDGsなど、未来の社会に向けて、次代を担う子どもたちが、将来どのようにより良い地域、社会、世界を実現していけるのかを必ず考えさせながら授業を展開するのが大事だと思いました。SDGsのどの項目に該当するかということが各ページの右ページ下に表示してあります。そして左ページの下には、これも大事なことだと思いますが、他分野・他教科の関連項目を表示しています。具体的には、87ページの「選挙の仕組みについて考えよう」という教材があり、ここで考えさせているのは、死票です。投票した結果、死票が多いが、これは効率と公正の観点から考えるとどんな問題があるのか、課題があるのかということを話し合ってみようという教材です。このことを踏まえて、次の88ページの本文の中に、18歳選挙権の学習項目があります。最近の選挙制度の変更という形で各社取り上げていますが、本文の中に、若者の投票率の低下というのを、「実際投票できるようになったけれども、そんなに投票してくれなかった」というような課題を提示しながら、間もなく選挙権を持つ年齢になるにあたり、身近な課題として考えさせるというところが、他社でももちろん触れていますが、突っ込み方、課題の捉え方は教育出版がよかったと思います。章の最後に「学習のまとめと表現」という教材があるのですが、これは本当によくできていると思いました。また、最初のページの、「公民のノートづくり」というページがあり、工夫されたノートの取り方ではないですが、授業の板書事項だけではなくて、資料集や、何ページを開いたとか、教員の発言をメモするとか、使い勝手のあるノートづくりだと思います。最後に、教育出版は構成がしっかりしていると思いました。知識、理解の確認、資料の読み取りから自分の考えをまとめて表現させ、

見方・考え方を深められるように工夫されている点が優れたところだと思い、教育出版を推薦します。

- **坂根委員** 私も教育出版を推薦しますが、少し記述について気になることがあります。国際連合についての記述ですが、国際連盟が1920年に設立されましたが、第二次大戦を防ぐことができなかったという反省から1945年に国連憲章が採択されて、平和のために国際連合が設立されたというような記述が多いです。実際に国際連合ができたのは、1945年の4月にサンフランシスコ会議が開かれ、10月に国連憲章が採択されたという流れがあります。それが明確に書いてある教科書会社は自由社です。育鵬社も「第二次大戦中の連合国が集まり…」と経緯を書いています。自由社は、現在でも国連憲章にある日・独・伊、他4か国が対象である「敵国条項」についても掲載しています。国際連合の英語名は連合国を意味する（United Nations）であり、このことを理解できるように、このような歴史的経緯は載せた方が良いと思います。また、教育出版を推薦する理由は、女性に関する記述が非常によくできている点です。教育出版の50ページに今話題になっているニュージーランドのアーダーン首相が自身の子どもを連れて国連の会議に参加する写真が載っており、男女の平等については、日本国憲法以外にも男女共同参画社会基本法が制定されたことが書いてあります。また、まず国連で女子差別撤廃条約が採択され、その次に1985年に男女雇用機会均等法が制定され、それから男女共同参画社会基本法、その後、女性活躍推進法が制定されたという流れが的確に記述されています。53ページは識字学級や感染症問題やLGBTについて書かれています。東京都のある中学校で「LGBTについて考える会」が発足したことや、小学校の教室での授業にLGBTの方を招いた事例について詳しく書いてあります。また、216ページ「子どもと女性をめぐる」では、貧困の子どもや女性が抱える問題について書いてあります。217ページには、マララ・ユスフザイさんのことが書いてあります。さらには、2018年にサウジアラビアで女性の運転が認められたこと等、世界的な話題についてもかなり詳しく書いてあります。
- **白石委員** 私も教育出版を推薦したいです。5ページの部分を見ていただくと、「学習コラム」という教材の紹介があります。各コラムを見ていくと、単元のまとめの作業をするときに参考となるのではないかと感じました。また18歳の選挙権についてですが、選挙権が18歳以上の国民に認められるようになり、中学校を卒業すると3年ほどで選挙を体験していくと思います。やはり、このようなことを早めに子どもたちに教えて、選挙に行く人を少しでも増やしていければということもあると思いますし、選挙権がなぜ20歳から18歳になったのかや、選挙は当日に行かなくても大丈夫だよ、ということも書かれています。このような情報を子どもたちが受け取りやすいのではないかと感じたので、教育出版が望ましいのではないかなと考えます。
- **教育長** 今、教育出版と育鵬社という意見がでています。両方を推薦している阿部委員、何かご意見はありますか。
- **阿部委員** 教育出版で異存はありません。育鵬社は、多少前提となる知識や情報を得ていないと、問題提起をされても混乱してしまう生徒もいるかもしれないという懸念があります。恐らく基本的なことを学んだ後に、世界情勢や課題については、授業の後半の方で先生に補足してもらえたら良いかなと思います。
- **教育長** それでは、社会科（公民分野）について採択をします。社会科（公民分野）の教科

用図書は、教育出版株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、社会科（公民分野）の教科用図書は、教育出版株式会社を採択することに決定いたします。議事の都合上により、ここで教育委員会を一旦休憩します。なお、再開は午後1時10分とします。

（休憩）

- **教育長** それでは、教育委員会を再開します。次に、地図について審議をいたします。事務局から説明をお願いします。
- **指導室** 教科用図書としての地図について、これを十分に活用し、地図の読図や作図、景観写真の読み取り、地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能を身に付けることが重視されております。地図につきましては、現在使用している教科用図書は、「株式会社帝国書院」でございます。全2社からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、地図の教科用図書について、委員の皆さんの意見をよろしく願います。
- **浅松委員** 小学校4年次から使ってきた地図帳が、小学校では慣れる、探すという基本的な地図の活用方法、活用能力を問うものだったのですが、中学生になると、地図の活用が歴史的分野、公民的分野等の学習、他教科等とも横断的にいろいろな場面で活用するという形で、単なる地理の学習ということだけの視点で地図帳の活用を捉えるというのは、ちょっと浅い部分があるかと思います。帝国書院と東京書籍の2社を比較して見ていきます。まず、サイズですが、帝国書院が、A4版というかなり大きなサイズになりました。幾つかの工夫もあり、鳥瞰図が新たに掲載されています。標高、少し専門的に言うと、陸の高さ、陸高、土地の高低が細かく示されて、地形の詳しい様子が立体模型のように実感できる場所があります。また、首都東京、東京周辺の地図を見ますと、東京書籍は、この大きさの中で125から126ページに東京中心部が掲載されています。帝国書院は、偶然ですが同じく125から126ページに東京都の中心部ということで、タイトルは一緒なのですが、縮尺が異なります。東京書籍は10万分の1ですので、東京都の様子も含めて中心部から外側の広がりまでをクリアしています。帝国書院は5万分の1です。この地図の縮尺でいつも話題になるのが、墨田区がどの範囲になるかということです。帝国書院は墨田区の錦糸公園の辺りで切れています。昔の江戸の地図や遺跡等の資料が入っていて、これがなければ完全に入っていたと思います。一方、東京書籍は、江戸川区や千葉県の一部までクリアしています。よって、この中心部の学習を社会科の授業の中でどう生かすかということになると、やはり大きくて見やすい地図である、帝国書院が良いと思います。また、東京書籍はサイズがコンパクトで、生徒が机の上に教科書やノートを広げたときにかさばらないことに配慮していると思います。地図の各地方の色については、標高が高くなると茶色が濃くなり、平野部は緑色で表現していますが、このコントラストの点では、東京書籍の方が分かりやすいです。しかし、地図にはいろいろな情報、例えば、昔の国名や現在の都道府県、地形の名称等が入ってきますので、帝国書院は淡い緑

色と淡い茶色を使いながら高低差を示しているのも、文字を読むのに邪魔にならないと思います。この点からは、帝国書院の方が見やすいのかなと思いました。また、東京オリンピック・パラリンピック2020の競技施設の会場や関連施設等は、東京書籍の132ページに、2018年6月現在の情報として、墨田区の両国国技館がボクシング会場として掲載されています。そのほか新競技の紹介、ボランティアのユニフォームも紹介されていて、タイムリーな部分ではクリアしていると思います。最後に、災害や環境問題については、地図の活用の中で、理科やその他の部分でもリンクしていることがあります。東京書籍は、151ページから152ページにかけて、「日本の自然環境（災害、環境問題）」という中で、また、帝国書院は、149ページから150ページに該当する記述があります。帝国書院は地震の分布、火山の分布、地震が起きたことと火山の分布を2ページにわたって広く取っている。これは、分かりやすいのですが少し残念です。その分ほかの分布図や主題図等の制約があったと思います。その点、東京書籍は2ページの中に分かりやすく収めています。日本という国土は、地形の特色から、自然災害、特に最近では予期せぬ豪雨による災害が日常的にニュースや話題になっています。土砂崩れを含めた水害の起こりやすさ、地すべりが起きたところも含めて、いろいろな形で全てを紙面に表すことは限界があると思いますので、今後は電子情報の地図を活用するための工夫も必要になってくると思います。また、帝国書院の124ページでは「東京都周辺の地形」が取り上げられていて、そこに防災の地図活用のことが分かりやすく記載されています。特に関心が高い、海面からの高さや水害の起こりやすい地域等を考えさせる授業ができると思いました。それぞれの特徴、良い点や少し残念な点も含めて見ていく中で、サイズが大きくなった分、使い勝手がよくなるのかなという点から、帝国書院を推薦したいと思います。

- **阿部委員** 私は、浅松委員と同じく、帝国書院を推薦したいと思います。地図は、地理の学習が主体ですが、歴史や公民で随時参照することが多いと思います。そこで、見やすさ・使いやすさ、情報量、情報の新しさという観点で比べてみたいと思いました。両社を比較しますと、まず浅松委員もおっしゃっていましたが、版が帝国書院の方が一回り大きいので、当然、地図も大きいし情報量が多いので、東京書籍と比べた場合には帝国書院の方が優れていると思います。領土、領海の説明は、帝国の方が詳しくて見やすいと感じました。また、鳥瞰図ですが、東京書籍は49ページと50ページにヨーロッパの鳥瞰図があり、陸の高低や海底の地形まで分かります。これは興味深いです。帝国書院はヨーロッパの鳥瞰図が49ページと50ページにあります。海底については触れていませんけれども、各地の季節や、あるいは産業と結びつけて、子どもたちが中学生のレベルとしては非常に親しみやすく、地形以外の情報が盛られていて、例えば、ヨーロッパを勉強するスタートラインとして非常に分かりやすく、魅力的だなと思いました。やはり版が大きいだけ、データや資料は帝国書院の方がその分多く、その点も使いやすいと思いました。東京書籍の特色は、例えば、初めの方にSDGsの説明や、現在起きている災害、紛争、難民の問題などに触れている点は、公民との連携を意識していると思いました。また、東京書籍は各所に地域の資料を紹介しています。例えば東京書籍の39ページの「南アジア・西アジアの資料」の中には、写真や図が載っていて、これは地理や公民、あるいは歴史との関連を意識していると思われ、新しい試みだと思いました。ただ、相対的に見て、地図の本来の使い道や、現在の地図帳も帝国書院を使っているということなので、使い慣れているという点からも、帝国書院をお勧めしたいと思います。

- **教育長** では、お二人の委員から帝国書院の推薦がありましたが、帝国書院以外を推薦される委員の方はいらっしゃいますか。
- **坂根委員** 私も帝国書院を推薦しますが、1点だけ申し上げます。帝国書院は167ページから169ページの「世界の統計」という教材で「正式国名」を記載しています。東京書籍は「国名」を記載しています。正式国名は意外に知らないことが多く、例えばイギリスは「グレートブリテン及び北アイルランド連合王国」、ウルグアイは「ウルグアイ東方共和国」です。正式国名はほかの社会科教科書も含め、学ぶ唯一の機会だと思いますので、ぜひその点も有効に活用していただければと思います。
- **教育長** それでは、地図について採択をします。地図の教科用図書は、株式会社帝国書院を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、地図の教科用図書は、株式会社帝国書院を採択することに決定いたします。では、次に、数学科について審議いたします。事務局から説明をお願いします。
- **指導室長** 数学科においては、数学的に考える資質・能力を育成する観点から、実社会との関わりと数学を統合的・発展的に構成していくことを意識して、数学的活動の充実等を図ること、社会生活など様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力を育成するため、統計的な内容等の改善・充実を図ることが重視されています。数学科につきましては、現在使用している教科用図書は、「株式会社新興出版社啓林館」でございます。全7者からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、数学科の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願います。では、私の方から意見を述べます。私は、学校図書を推薦します。また、東京書籍も良かったのですが、また各社とも問題に特色が出ています。私が学校図書を推薦した理由は、練習問題が非常に多く、教科書でアウトプットの充実が図ることができるからです。アウトプットは問題集でやれば良いじゃないかという意見もありますが、教科書に載っている問題については、教科書の例題と親和性が高いので、子どもたちが迷うことなく基礎、基本の問題は取り組みやすく、自信をつけることができます。例題、問い、確かめよう、章のまとめと一連の流れの中で練習ができます。また、章のまとめについて、特色があるのが、「基本」「応用」「活用」「深めよう」という4段階別の問題が章のまとめの中に入っていて、子どもたちが基礎、基本に取り組み、次に応用、さらに挑戦できる場合は活用、それから深めようとなり、習熟度にあった問題を解いていくことができます。数が多いわけではないのですが、誤りやすい誤答例を挙げているので、これは子どもたちが、「こんなところを誤るんだ」ということを知ることができ、正答ばかりではなく、誤答も明確にしているところが、子どもたちの深い学びにつながると考えています。また、深めよう、疑問を考えようという領域横断型、教科横断型の学習に取り組むことができ、この教科書をしっかり学んでいくと、確実に学力がつくと思われます。東京書籍はビジュアル的に見やすいです。メリハリがあると思います。問題も見やすいのですが、今お話ししたように、数学を一連の流れの中で取り組み、学力をつけるということを明確に意識して作成したと感じられたのは、学校図書の方でした。ほかの教科書もそれぞれ特色があって、いろいろな活用の仕方が考えら

れると思いますが、特に数学は、頭の中で分かっても、アウトプットが重要になってきます。問題集を使わずに、教科書の1冊でできるということで、学校図書を推薦します。

- **浅松委員** 私も学校図書が、墨田の中学生にはふさわしいかなと思いました。その大きな理由の1つが、1年次の10ページから11ページにかけて、～算数から数学へ～というページを設けて、小学校の振り返りを踏まえ、中学校への円滑な連結するというねらいが明確です。算数から数学へと移行していく中で、最初につまずくのが正の数、負の数です。入学して4月、5月を経て、その間にも振り返りをやっていますが、新しい数字の捉え方というところでつまずく生徒が多いという話を聞いています。この振り返りの中で、小学校の算数から、円滑に中学校の数学につなげていくことをしっかりと押さえておかないと、新入生の前期で学力に差がついてしまうことになりかねないと思います。また、同じく1年次の163ページに役立つ数学として反比例を使った「電子レンジの加熱時間」のことが書かれています。数学で学んだことが自分の生活、身の回りの生活に生かすことができるとか、いろいろな課題解決につなげることができるというのが大きな視点だと思います。ご存じのとおり、昨年の全国の学力調査で、関数の正答率が41.7%でした。反比例の式を半数の生徒が書けておらず、基礎的な部分がややおろそかになっていると言えると思います。また、全国調査の大問の6に、事象を科学的に解釈して、問題解決の方法を数学的に説明する問題がありました。具体的には、冷蔵庫（A～C）3種類の容量・費用・電気代について記載された表があり、そのうちB、Cの冷蔵庫どちらかを購入する場合、2つの総費用を比べ、それぞれの使用年数が等しくなる方法を説明する問題でした。正答率は、式が16.4%、グラフが19.2%で、正答率が35.6%でした。「電子レンジの加熱時間」を実際に自分の生活の中で見ていくと、電子レンジは、出力が高ければ時間が短くてすぐに温まり、出力が低ければ長い時間かけなければならないことは、わかると思います。そこから数学の問題を解くという形は良いと思いました。また、単元のまとめの問題が、基本、応用、活用という形で、段階的に自分の学力を把握できるようになっていることが良いと思いました。なお高校への数学につなげる中3の教科書については、266ページ、高校への架け橋と題して、高校で学習する幾つかの例が、示されています。小学校と高校への連結の部分である中学の数学の扱いについて、一番ふさわしかったのは学校図書だと考えました。

- **坂根委員** 私は学校図書も良いと思いますが、啓林館をお勧めしたいと思います。啓林館は用語の説明が的確だと考えます。数学も読解力がないと難しいです。具体的には2年の学校図書は131ページ、啓林館は115ページの図形の合同での証明とは何かというところですが、学校図書は、「あることがらが正しいことを、すでに正しいと認められたことがらを根拠にして、筋道を立てて証明することを証明という。」と書かれています。啓林館は「このように、すでに正しいと認められていることがらを根拠として、仮定から結論を導くことを証明といいます。」と書かれています。仮定をして正しいと認められていることを根拠に結論をだすということがわかりやすいです。用語の理解が正しくできないと数学でつまずきやすいと思います。ひとつの例ですが、その点で啓林館の方が優れているかなと考えます。教育長のおっしゃったアウトプットに関しては、学校図書も良いのですが、浅松委員がお話しになった、「何のために数学を学ぶのか」という視点で考えた一つの例を思い出します。以前、読んだ『江戸の数学』という本に、江戸の人たちは数学をする楽しみで問題を解いていた、とても

数学好きな国民だったという話なのですが、やはり、アウトプットに楽しみを見いだすことは大切なので、啓林館の方が楽しいかなと思いました。ただ、啓林館は最後の方のページ、「自分から学ぼう」のところが、教科書を横にしないと読めない形になっているため、見にくいと思いました。

- **阿部委員** 私は学校図書が良いと思います。墨田区の学力調査では、数学はいろいろな課題があるという指摘があり、特に学校間、あるいは同じ学校の中でもいわゆるA・B層という得意な生徒と、あまり得意ではないという生徒とが二極化し、その差が開いてきているようだという話を聞きました。数学は、ある部分だけ学べばできるものではなくて、習ったことが段階的に深まっていくという学問ですから、どこかでつまづいてしまうと、そこから先が分からなくなって、苦手意識が強くなってしまいます。習熟度に応じて、得意な生徒にはどんどん新しい問題に挑戦してもらい、あまり得意ではない生徒には基礎的なことをきちんと復習して次のページに進んでもらうというような、生徒の特色に合わせて勉強してもらいたいと思っています。教育長がおっしゃったように、学校図書はまとめの問題のところで、基礎、応用、活用、さらに深めようという流れがあり、それぞれの問題が多数あります。基本的なところから、習熟度に応じて問題を解くと、個人的には少し難しい問題もあるかなという印象もありますが、習熟度に応じて使えば大いに活用できるという期待があります。ただ、今は啓林館を使用しているので、教科書を変えることで混乱が生じないか、少し心配です。
- **教育長** 墨田区の子どもたちの学力はだんだん上がってきていて、二極化している傾向があります。今までは、基礎、基本、インプットを重視していたのですが、基礎・基本が身についた生徒には発展的な問題に挑戦した方が学力は伸びると思います。学校図書は、基礎の部分の問題数が少なくなっている印象はありますが、必要な問題数は載っていると思います。また、今まで分かりやすいということに重点が置かれていたのですが、分かりやすいだけではなく、子どもたちができるようになることが重要で、数学に興味があっても、できなければだんだん興味がなくなっていくことがあります。現状を踏まえると、教科書の内容を変えた方が良いと思いますし、変えることに問題もないかと思います。坂根委員もおっしゃった興味・関心というのは大変重要だと思いますが、浅松委員、阿部委員と私が言っている段階別な問題について、学校図書はかなり明確なものがあると思います。
- **坂根委員** 学校図書も用語の説明などを的確にしていると考えています。例えば、2年次の111ページに書いてある錯角の用語の由来です。現場からは、言葉の意味が分からないから理解できないという悩みをよく聞きますので、授業の中で言葉の説明を十分行っていただくことで、子どもたちの理解度が上がるのではないかと考えます。
- **教育長** それでは、数学科について採択をします。数学科の教科用図書は、学校図書株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、数学の教科用図書は、学校図書株式会社を採択することに決定いたします。引き続きまして、理科について審議したいと思います。事務局から説明をお願いします。
- **指導室長** 理科においては、自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的に探究する学習の充実、また、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会との

関連が重視されています。理科につきましては、現在使用している教科用図書は、「東京書籍株式会社」でございます。全5者からの採択をお願いいたします。

- **教育長** それでは、理科の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をよろしく願います。それでは、理科につきましても私のから意見を述べます。推薦図書は啓林館です。その理由は、通常の学習から基礎、基本を定着させるという流れが際立っているということです。教科書の流れに沿っていくと、アウトプットができて、定着を図ることができます。具体的には、章末には基本のチェックがあるということと、単元末には学習のまとめで重要事項を再チェックすることができます。また、力試しで確認のための問題があり、その中で思考力アップという問題があって、これも習熟に応じたものであり、基礎、基本だけではなく応用力もつくと思いました。教科書の中での問題数が多いと、先ほどお話ししましたように、親和性があって解きやすく、覚えやすい問題が多いと思います。まず基礎、基本が定着することが大切です。そして、学年末には学年総合問題があることも評価した点の1つです。また、問題数は少ないですが、本文中の例題では、生徒がつまづきやすいところが記載されています。また「なるほど」では勘違いしやすい事項が挙げられていて、これらを生徒に教えていくことで、生徒の興味関心を引き出しやすい。こんなふうにつまづくんだと、生徒が客観的に見ることができます。また、デジタルコンテンツについてですが、他の教科書もデジタルコンテンツは豊富なのですが、啓林館もデジタルコンテンツが豊富であるということと、写真が大きく掲載されていることも印象的です。学校図書は全体的に見やすく、また問題が、学習内容を日常に生かしたものになっています。これについては基礎、基本の定着が前提となっている問題が作られていると思いました。基礎、基本からしっかり確認ができるという特徴を持つ啓林館を推薦したいと考えます。
- **白石委員** 私も啓林館が良いと思います。巻末の部分に探究シートというのが入っていて、このシートを活用し、実際に活動したり話し合ったりしながら、主体的、多様的に課題を解決するよう設定されています。生徒自身の言葉で考えや感想を書き込んだり、実験に役立つツールを使って学習に取り組んだりするところが良いと思いました。また、コラムの部分では、部活ラボ、お仕事ラボ、防災・減災ラボ、お料理ラボなどがあり、日常生活や社会でどのように理科の学習が役立っているかを説明しています。生徒の多様な興味関心と学習内容の関連が書かれていると思いました。活用してみようという欄では、学習した内容を生かして解決できるような問いを設けています。また、先ほど教育長からもお話がありましたが、「力試し」では、学んだ知識を活用して解く応用問題があり、学んだことを確認できるところが私も良いと思いました。このような点から、啓林館が望ましいと思います。
- **阿部委員** 私は、学校図書をお勧めしたいと思います。簡潔にまとまっている印象があり、読みやすいと思います。また、全部ではないですが、何箇所かに、「キャンドウリスト」というところがあります。QRコードを読み取ると、学んだことを復習できるので、子どもたちはiPadなどを使うことで、面白い取組ができそうだと思います。啓林館と学校図書では大きな差があると思わないので、どちらでも良いと思いますが、啓林館に特色があるようにはあまり思わなかったのも、どちらかというと面白いのは学校図書だなと思い、推薦しました。
- **坂根委員** 私は啓林館をお勧めします。その理由は、レポートの書き方、例えば11ページに、

私のレポートとして、レポート作成のチェックリストが書いてあります。これを活かすことでレポートの書き方は変わってくると思います。学校図書にも、レポート、ノートの書き方が24ページにありますが、きれい過ぎる印象です。逆に言うと、きれいに書くことを生徒が目的にしてしまうのではないかと感じます。次に、スケッチについてです。スケッチの仕方、これはどの教科書会社も書いていますが、良い例、悪い例がのっていて、美術とは違って、影をつけることや二重書きはしてはいけないと書いてある教科書があります。啓林館は、「スケッチすると細かい部分まで観察できるよ」と書いてあります。スケッチの目的というのは観察することです。そこが非常に曖昧な教科書会社が多いところ、ほかの人に説明するとか、写真より特徴がはっきり分かる、観察が主だということが書いてあることが、私はこれが理科の基本だと思います。また啓林館の最初の4ページ、自然観察のポイント、見つける、比べる、変化を見る、関係を見るとありますが、ここに出ている植物もちょうど良いと思いました。例えばハルジオンとヒメジョオンについては、私も観察で経験したことがあります。ただ、このページで1つ問題があるのは、タンポポの比較で、セイヨウタンポポとカンサイタンポポが載っています。カンサイタンポポは関東ではカントウタンポポと言っていると思います。国語の教科書でタンポポのことを書いていた方の文にはカントウタンポポと書いてありました。出版社の所在地で使われている用語の違いだと思いますが、それらの用語の違いについては、学校現場で正しく把握して授業を行っていく必要があると思います。

- **浅松委員** 私は、学校図書を推薦したいと思います。学校図書の73ページにガスバーナーの使い方というところですが、理科は事故を防ぐこと、安全という観点がすごく大切な部分だと思いますので、ガスバーナーの使い方が具体的でわかりやすく、よりリアルです。また実験の手順がすごく詳しい。教科書を読んだら、生徒自身で理解していけると感じました。ただ、バランスでいうと、啓林館が優れていると思います。また、大日本図書は70ページで、読解力問題、読解力という形で問題を提示しているのがとても新鮮です。読解力の部分を意識して設定をしたのではないかと思います、注目しました。
- **教育長** 学校図書については、見やすさは感じますし、観察、実験を重視して、具体的な器具の使い方や写真の説明が多く出ていると思います。墨田区の子どもたちに、まずは学力を着実につけていくということが重要であるという観点から、啓林館ということではいかかでしょうか。
- **阿部委員** 確かに、学力を定着させるためには、啓林館の方が良いと思います。異存はありません。
- **教育長** それでは、理科について採択をします。理科の教科用図書は、株式会社新興出版社啓林館を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、理科の教科用図書は、株式会社新興出版社啓林館を採択することに決定いたします。続きまして、音楽科(一般)について審議をいたします。事務局から説明をお願いします。
- **指導室長** 音楽科において、感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてその良さや美しさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図ること、音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、

音楽文化についての理解を深める学習の充実を図ることが重視されています。音楽科（一般）につきましては、現在使用している教科用図書は、「株式会社教育芸術社」でございます。全2者からの採択をお願いいたします。

- **教育長** それでは、音楽科（一般）の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をよろしくお願いいたします。
- **浅松委員** 教科書を推薦するにあたり、音楽の学力とは何かを考えました。音楽の授業、は週1回です。その中で、一人一人の子どもがより自ら主体的に音楽の学びを実現できるようにすること。演奏を通して、この音楽にはどのような音楽の良さや、美しさ、味わいがあるのかを感じとり、試行錯誤しながら工夫して表現する。要は、音楽にも思考とか判断、それから表現する学習場面というものが設定されています。また、合唱や合奏のように他者と声を合わせたり楽器を合わせたりする中で、複数の人間との表現があることでいうと、他者理解や連帯感、あるいは相互理解というのも音楽科としては特に大切な部分だと思います。自分の思いや意図を表現したり、また他者とともに表したり、自分の言葉でその音楽の良さや美しさを説明できたり、この辺が音楽の学力とするならば、この求められる学力を確実に、定着させるために工夫された教科書という点で考えた結果、私は教育芸術社を推薦します。まず、表紙のイラストがドラマチックだと思います。1年次教科書の初めに、「その先へ」という楽曲があります。この曲は山崎朋子さんという有名な方の作詞・作曲ですが、ホームページで聴くことができます。このイメージがまさに表紙とリンクして、中学生になったばかりの生徒の気持ちにはぴったりの希望あふれる曲です。私は何度もこれを視聴しながら、このイメージを感じ取りました。教育芸術社は、学びの地図となるページが目次の次にありますが、上段に学習指導要領の分野ごとの指導事項を示して、その下にそれらと各教材との関連をマークで示して参考になると思いました。さらには、年間指導計画、あるいはその評価計画を分ける際にも参考になり、生徒も学びの整理がつくと思いました。教育出版は、学びのユニットという形で、それぞれ楽曲ごとに円で領域を示す形を取っています。すごく魅力的だと感じました。いずれにしてもこの学びのユニットによって、学びの狙いとか活動だけではなくて、ほかに比べる曲が何かないのかとか、ワンポイントアドバイスが示されています。ただ、少し記号が多いので、慣れないといけないのかなと思いましたが、工夫はしていることに気づきました。教育出版社は、それぞれコンテンツ、ウェブリンクで使う曲がフルで入っています。要するに1番から3番なら3番まで入っています。それに対して、教育芸術社は、例えば、「花」という墨田にゆかりのある曲がありますが、「花」という曲の中で、花の曲が聴けるのかなと思うと、実は「花」と組歌となっている他の3曲の部分が流れます。教育芸術社は収めている曲が少ない印象です。調べてみると、学校の授業の中で活用することを想定していて、生徒たちが一斉にみると、アクセスが集中してインターネット接続が不安定になるのでかなり絞ったということでした。また、ICT環境が決して統一的に配備されているわけではないということから、配慮したとのことでした。このコロナ禍で、声を出せないというような授業展開の中で、教育出版のようにウェブを利用してフルで聞けるのは良いことだと思いました。ただ、総合的に見て、私は教育芸術社を推薦したいと思います。
- **白石委員** 私も教育芸術社が良いと思います。教育芸術社は、生活や社会の中の音楽という

単元があります。音楽を学ぶ意味や音楽が社会生活に果たす役割について、生徒が教科書にある資料を核として考えることができるのが良いと思います。学習の中で社会や生活との関わりについて考える機会が持てると、より音楽が生徒にとって身近になるのではないかと思います。全学年に生活や社会の中の音楽の学習活動が設定されていることや、日本、海外のポピュラーな音楽を紹介しているのも、生徒の音楽への興味関心につながると思いました。また、多くの作者、演奏者からのメッセージがあることも良いと思いました。生徒が音楽を学ぶときに、作詞や作曲をした人の思いや歌に込められた願いを知ることができます。そうすることで、より曲を身近に感じて学習できるのではないかと感じました。

- **坂根委員** 私も教育芸術社を推薦します。まず、オペラに関しては、教育出版、教育芸術社とも扱っていて、教材は「アイダ」です。しかし、バレエに関しては、教育出版は2、3年の上でバレエ、ストラヴィンスキーの「春の祭典」、2、3年の下では「白鳥の湖」を扱っていますが、教育芸術社は扱っていないと思います。オペラやバレエについて学んだり接したりする機会はなかなかないので、ぜひバレエについても触れてほしいと思います。教育芸術社では、先ほど話題になった墨田区の愛唱歌の「花」や「仰げば尊し」のページに、言葉の説明が正確に記述されています。「花」の「見ずや」というのは「見てごらん」、「仰げば尊し」の「別れめ」というのは「別れましょう」です。もう少し文語の説明があればより良いと思いますが、言葉を大事にするということは評価できると考えます。
- **阿部委員** 内容、写真、選曲などいろいろ見てみると、教育芸術社が一步先に出るかなとは思いますが、教育出版は、まなびリンクというものがあり、QRコードを読むと、曲や歌唱の全体を聴くことができます。現在の、集団で合唱したり合奏したりすることが難しい状況を踏まえると、自分で聴いて勉強できることがメリットだと思います。ただ、教育芸術社もいろいろな要望を踏まえ、これから新しいコンテンツとして追加できるだろうと思い、今後充実させていただければという期待も含め、教育芸術社で結構です。
- **教育長** それでは、音楽科（一般）について採択をします。音楽科（一般）の教科用図書は、株式会社教育芸術社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。（「異議なし」の声あり）
- **教育長** それでは、音楽科（一般）の教科用図書は、株式会社教育芸術社を採択することに決定いたします。議事の都合上、ここで教育委員会を一旦休憩します。なお、再開は午後2時30分とします。

（休憩）

- **教育長** それでは、教育委員会を再開します。音楽科（器楽合奏）の教科用図書について審議をいたします。事務局から説明をお願いします。
- **指導室長** 器楽の指導事項として、生活や社会において、音楽が果たしている役割が感じ取れるもの。生徒が我が国や郷土の伝統音楽の良さを味わい、愛着をもつことができるよう工夫することが重視されています。音楽科（器楽）につきましては、現在使用している教科用図書は、「株式会社教育芸術社」でございます。全2者からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、委員の皆さんのご意見をよろしくお願いいたします。

- **浅松委員** 教育芸術社の18ページ、19ページ、教育出版は4ページ、5ページ、音楽の授業でよく行うリコーダーの演奏がありますが、その姿勢と構え方について、写真を正面と真横から撮っているのが教育芸術社、教育出版は斜め左上から撮っています。やはり正面からですと指の位置が分かりやすく、教育芸術社の方が分かりやすいと思いました。ギターについては、教育芸術社はクラシックギター、ガットギターだけではなく、アコースティックギター、フォークギター、エレキギター等の紹介もあります。音楽に関心ある若い中学生にとって身近に感じる楽器であり、ギターのようにポピュラーな楽器も紹介しながら載せている点が良いと思いました。太鼓については、教育出版社では56ページから59ページの4ページにわたって、構え方と打ち方を分かりやすく写真付きで紹介しています。一方で、教育芸術社は基本的な打ち方のみの紹介となっています。最後に、打楽器ですが、中学校では、学校の授業だけではなく、部活動、吹奏楽でも演奏する身近な楽器として捉えられています。教育芸術社は70ページから74ページの5ページにわたって詳しく紹介しているところがあります。授業だけではなく、現場に配慮した内容構成として工夫されてると感じ、使用教科書としては適切だと思いました。以上2社を比べると、器楽も教育芸術社を推薦したいと思います。
- **白石委員** 私も教育芸術社が良いと思います。浅松委員もおっしゃっていましたが、リコーダーの扱いがとても丁寧だと思います。レッスン1から4まで設定していて、段階的に生徒が学べるようにしている。生徒がいろいろな曲を演奏しながら、段階的にリコーダーの技術が上達できるようになっているところが良いと思いました。また、51ページ、和楽器のページでは、和楽器こぼれ話としてコラムが掲載されています。あまり和楽器のことを知らない生徒にとって、楽器が身近に感じるきっかけになるのではないかと思います。さらに、資料で紹介されている曲も多いところが良いと思います。選曲も生徒に興味を持たせるように、テレビ番組のオープニングテーマや、映画の中で使われている曲を取り入れているので、演奏する楽しみにつながると思いました。このような点から、教育芸術社が良いと私は思います。
- **教育長** それでは、音楽科（器楽合奏）について採択をします。音楽科（器楽合奏）の教科用図書は、株式会社教育芸術社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
（「異議なし」の声あり）
- **教育長** それでは、音楽科（器楽合奏）の教科用図書は、株式会社教育芸術社を採択することに決定いたします。次に、美術について審議をいたします。事務局からご説明をお願いします。
- **指導室長** 美術科においては、感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、内容の改善を図ること、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図ることが重視されています。美術科につきましては、現在使用している教科用図書は、「日本文教出版株式会社」でございます。全3者からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、美術科の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をよろしく願いいたします。
- **坂根委員** 私が推薦するのは日本文教出版です。各社の題材についてですが、日本文教出版

は、「見つめると見えてくるもの」「じっくり見ると見えてくる」「なぜか気になる風景」、開隆堂は、「見ることからの脱却」、光村図書は、「見つめ感じ取り描く」など、純粋に見ることを注視しているものがあります。私が若い頃気に入った本の中に、リルケの『マルテの手記』があります。そこの冒頭に、「僕はまず見ることを学ぼうと思う。」という文があります。理科でも観察が大事ということを申し上げましたが、対象を見るということは、対象との対話です。これは「主体的、対話的、深い学び」にまさに直結する考え方だと思います。日本文教出版の表紙を見ますと、1年の表紙はフェルメール、2年は東山魁夷、3年はサンティアゴ・カラトラバという建築家で、バランスが良いと思います。また、日本文教出版は3分冊になっていて、他社は2分冊なので、情報量が多いと感じます。このような点が、日本文教出版を薦める理由の1つです。2、3年の上の東山魁夷が表紙の次のページには、ゴッホやモネの作品の一部が原寸大で出てきます。2、3年の下には、先ほどのカラトラバさんの後にガウディの建築が出てきます。ガウディは2、3年の上、49ページの「憩いを生み出す場所」という単元のなかで、グエル公園が挙げられています。関連づけて見ていることが評価できると思います。次に、墨田区が誇る「葛飾北斎」関係です。各社取り上げています。開隆堂と光村図書は、北斎美術館のロゴマークを扱っています。そして、開隆堂は裏表紙に妹島和世さんの設計になる北斎美術館が載っています。どの教科書会社も「神奈川沖浪裏」は掲載しています。特に日本文教出版の2、3年の上、2ページから31ページで浮世絵について、葛飾北斎をはじめ、東洲斎写楽、喜多川歌麿、歌川広重等の紹介があります。「神奈川沖浪裏」は原寸大で載せています。所蔵はすみだ北斎美術館なので、これもとてもうれしいことです。54ページには北斎の大波という教材があり、神奈川沖浪裏ができるまでを詳しく書いています。見開きのページは各社工夫されていて、開隆堂は若冲の作品、光村図書は風神雷神、また、日本文教出版は光琳の「燕子花図」、根津美術館所蔵のもので、墨田区とも縁の深い美術館所蔵のもので、ピカソの「ゲルニカ」は光村図書と日本文教出版で同じく見開きで扱っていますが、日本文教出版は池田学の作品も併せて載せています。レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」については、日本文教出版の2.3年下の32ページで「どこまで修復すべきか」で修復ということに論点を置いて扱っています。修復に22年の年月をかけた、サンタ・マリア・デッレ・グラッツィエというミラノの修道院所蔵のもので、見るのが予約制で、見る時間も何分と決まっている貴重な作品です。現在、日本の修復技術は、特に和紙を用いた修復が世界的にも評価されていますので、修復という視点の教材を取り上げていることは大変評価できます。ただし、女性作家は開隆堂が一番多いです。日本人では、世界的に有名な草間彌生や、片岡球子、三岸節子、そして上村松園も扱っています。日本文教出版は、1年でメアリー・カサット、これは光村図書も同様に1年に出てきます。また、染織家で紬織の人間国宝で文化勲章も受賞した志村ふくみさんが、ご本人の写真と一緒に出ています。フリーダ・カーロは開隆堂と日本文教出版で扱われています。このように日本の女性作家と外国の女性作家のバランスも良いと思います。また日本文教出版は、生徒の作品が多いです。生徒は自分の作品が掲載されることで励みになります。また、学んでいる生徒たちも、自分もこんなことができるのだという、モチベーションを持つきっかけになると思いますので、生徒の作品を多く扱うことは意味のあることだと思います。例えば、1年の52ページ「暮らしに息づく土の造形」ですが、生徒作品の大皿が載っていますが、すばら

しいもので、言われなければ生徒の作品だと思えないほどです。以上のことから、私は日本文教出版を推薦します。

- **教育長** 私も日本文教出版を推薦したいと思います。坂根委員がおっしゃったように、生徒の作品を多く紹介しているというのは、生徒にとって同世代の生徒がどんな作品をつくっているのかを知ることができます。また、作者の言葉が載っているところがありますが、その作者がどういう思いで作品をつくったということが分かり、ただ見て感動するだけではなく、作品と深く関わって思いはせることができるので、その点では非常に良いと考えます。また、美術というのは、自分の作品として描いたり作ったりすることも重要ですが、鑑賞ということも非常に重要なことです。その作品の見方について、例えば、知識がないときに見て感動するほか、知識を得て、新しい見方ができるようになっていろいろな感想を持つこともありますので、作品の見方についても充実してほしいと思います。その点では、開隆堂も見やすく、いろいろと工夫しています。光村図書も配置の仕方を工夫していますが、日本文教出版の方がどちらかというと見やすく、作品の関わり方も良いのではないかと思いますので、私は日本文教出版を推薦します。
- **教育長** では、美術科について採択をします。美術科の教科用図書は、日本文教出版株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、美術科の教科用図書は、日本文教出版株式会社を採択することに決定いたします。次に、保健体育科について審議いたします。事務局から、説明をお願いします。
- **指導室長** 保健体育科においては、体育科においては、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフの実現が重視されています。保健分野では、心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容等を充実することが重視されています。保健体育科につきましては、現在使用している教科用図書は、「株式会社学研教育みらい」でございます。全4者からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、保健体育科の教科用図書について、委員の皆さんからご意見をよろしくをお願いいたします。
- **白石委員** 私は、学研教育みらいが良いと思います。新型コロナウイルス感染症が広がりつつある現状の中で、感染症とその予防については重要な学びになってくると思います。150ページに、健康な生活と病気の予防で学習します。図や表、グラフ、写真などを掲載しており、大変分かりやすく説明されていると思います。次に、近年、人権課題として、性同一性障害や性倫理について、体の性と心の性との食い違いに悩まれる人に対しての偏見や差別が一部見受けられます。43ページに、少数者の声を社会を変える力にと、性的マイノリティーについて記載されています。このような内容が掲載されているのは大変良いと私は考えました。また、墨田区も力を入れているがん教育について、また喫煙と健康、また飲酒、薬等、薬物等に関してもとても見やすく解説されていると思いました。現在使われている教科書も学研教育みらいということで、継続してこの教科書を使用することが望ましいと思いました。
- **浅松委員** 私も学研教育みらいの教科書が一番ふさわしいと思っています。いじめの扱いに

について、他社に比べると多面的に捉えていると思います。例えば、65ページの心と体のSOSですが、いじめという言葉直接的に保健体育で出すというケースは稀だと思います。巻頭の口絵3で「いつでも話せる相手がいます」の中で、相談方法について紹介しており、4ページのところに電話番号も含めて相談機関が一覧になっています。また、本文の構成が、課題をつかむ、本文、考える・調べる、そしてまとめる・深めるという4つのステージにきちんと分けながら、大変分かりやすい学習ができるのではないかなと思っています。これが課題解決的な構成にもなっています。各社、感染症予防関係は掲載されていますが、当然、コロナ禍の前ですが、大修館書店を見ますと、139ページ、マスクはなぜつけるのというコラムが入っています。まさに今話題になっている部分だと思いつつ、マスクのつけ方、マスクがないときはどうするのかについても掲載されています。138ページには、人が顔を触る回数として、目が7回、鼻が16回、口が24回というデータでの感染のリスクについてもうたっています。各社それぞれ特徴はあると思いますが、全体を見て、学研教育みらいの保健体育の教科書がふさわしいと考えます。

- **阿部委員** 私も学研教育みらいが一番バランスが取れていて良いと思います。食べ物アレルギーを持ってるお子さんについては、給食でも随分注意をしている点ですので、アレルギーの知識も必要だと思って探したところ、学研教育みらいは38ページで比較的詳しく扱っています。東書は16ページで扱っています。ほかの教科書でも少し扱っていますが、この点は中学生にも知識として持ってもらいたいのので、教材としてしっかり扱っていただきたいと思っています。結論は学研教育みらいです。
- **坂根委員** 私も学研教育みらいです。LGBTなど性的マイノリティーに関する記述がはっきりと書いてあることが評価できると思います。中学は生徒たちがいろいろと悩む時期なので、教科書にはっきり書いてあると安心できるのではないかと思います。教科書に何も書いていないと、「自分はおかしいのではないかな」と感じてしまう生徒もいるかもしれません。そういう意味で教科書は大事だと思います。公民にもLGBTのことが書いてありましたけれども、それが普通に語られるようになってほしいと考えています。
- **教育長** それでは、保健体育について採択をします。保健体育科の教科用図書は、株式会社学研教育みらいを採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、保健体育科の教科用図書は、株式会社学研教育みらいを採択することに決定いたします。引き続きまして、技術・家庭科（技術分野）について審議いたします。事務局から説明をお願いします。
- **指導室長** 技術・家庭科（技術分野）においては、単に何かをつくるという活動ではなく、技術の見方・考え方を働かせつつ、生活や社会における技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決方策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作・育成を行い、その解決結果や解決過程を評価・改善するという活動の中で効果的に資質・能力を育成することが重視されています。技術・家庭科（技術分野）につきましては、現在使用している教科用図書は、「東京書籍株式会社」でございます。全3者からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、技術・家庭科（技術分野）の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をよろしく願いいたします。

- **白石委員** 私は東京書籍が良いと 생각합니다。48ページ、49ページ、作業手順を考えて製作しようでは、製作の手順が写真、手のアップで示されています。技術分野は、文字だけではなく、多くの写真を絵とともに示していくことで、生徒が具体的にイメージできることが重要であると考えます。東京書籍は、写真、絵などの情報が多く分かりやすいと感じました。また、106ページ、107ページ、栽培カレンダー、巻末にある今すぐできるプログラミング手帳など、学校での学習後も、学んだことを活用していこうとする資質・能力の育成に適している資料があると思いました。技術・家庭科は、日常生活に直接結びつく重要な教科であり、東京書籍の内容は、日常生活に結びつけることができる内容であるとともに、卒業後も参考資料のように活用し、生活に役立つことができる内容になっていると思います。このような点から、東京書籍が良いと 생각합니다。
- **阿部委員** 私も東京書籍が良いと思います。まず、東京書籍は、最初の導入部分は流れを明確に説明して、技術で何を学ぶかということを詳しく説明していることと、一番イラストや図が多いので非常に分かりやすいと思いました。また、技術では安全衛生が非常に大事なことだと思いますが、開隆堂は最初のところにまとめているのと、各所でも安全のマークで説明していますが、スペースが小さくてあまり注意を引かないので、東京書籍の方が良いかなと思いました。なお、情報モラルとかセキュリティー、知的財産については、両者それぞれ説明があります。この点は、若干開隆堂の方が詳しくて分かりやすいと思いますが、全体を総合しますと東京書籍が一番使いやすいという結論です。
- **坂根委員** 私も東京書籍を薦めます。テックラボなど大変役に立つ書き方、106ページの栽培カレンダーは、これもうすぐにでも使えると思いますし、分かりやすく書いてあるので、社会人になってもとして応用できるような優れたものだと思います。
- **教育長** それでは、技術・家庭科（技術分野）について採択をします。技術・家庭科（技術分野）の教科用図書は、東京書籍株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
（「異議なし」の声あり）
- **教育長** それでは、技術・家庭科（技術分野）の教科用図書は、東京書籍株式会社を採択することに決定いたします。続きまして、技術・家庭科（家庭分野）について審議をいたします。では、事務局から説明をお願いします。
- **指導室長** 技術・家庭科（家庭分野）においては、実践的・体験的な活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定しそれを解決する力や、より良い生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することが重視されています。技術・家庭科（家庭分野）につきましては、現在使用している教科用図書は、「東京書籍株式会社」でございます。全3者からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、技術・家庭科（家庭分野）の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をよろしく願いいたします。
- **白石委員** 私は東京書籍が良いと思います。墨田区では、幼保小中連携を推進しています。242ページ「幼児の施設へ行こう」のような内容は、家庭分野の学習と関連しながら連携を図ることができると思います。巻末には、防災・減災手帳があります。最近、自然災害等がと

ても多くなってきました。重要な学びであり、実生活で活用できると私は考えました。調理の方法などについては他社にも載っていますが、東京書籍の技術分野同様、写真、絵などと併せて提示した方が良いと思いました。技術・家庭科は、技術分野と関連づける必要があると考え、同一会社の教科書を使用する方が生徒にとっても学びやすいと思います。さらに、日常生活に結びつけ、生活に役立てることができると考え、東京書籍が良いと考えます。

- **阿部委員** 私も東京書籍を推薦したいと思います。他社と比べると写真がとても鮮明で、例えば食生活のところでは、食材や調理の写真は、つくってみたいとか食べてみたいという気にさせるようなきれいな画像だと思いました。また、東京書籍の場合は説明が丁寧で、図版も多く、情報が非常に多いという特色があると思います。さらには、技術と同じように、スタートの導入部分のところで、家庭科で何を学ぶのかということが図示されて、流れが分かるところが良いと思います。私は技術と同様、作業の安全衛生が必要なことだろうということを考えていて、東京書籍は全体に関するものが2ページから3ページ、調理の部門では54ページから55ページ、被服の部門では136ページから137ページと、それぞれの分野で安全衛生について独立して説明している点が良いと思いました。全体的に見て東京書籍を推薦します。
- **坂根委員** 私も東京書籍を推薦します。全体を通してのことですが、3社とも同じように「TPO」という言葉を使っていますが、最近、TPOという言葉はあまり聞きません。その辺はどのように教えて、現場で使っているのかどうか、その点が疑問です。家族に関して、東京書籍では214ページから216ページには「学校へ行く日は毎朝のように父や母にお弁当を作ってもらい、感謝している」と記述されています。また、「やってみよう」のところでは、朝食はお父さんが作っている様子があり、自然に赤ちゃんを抱いているお父さんや、洗濯を干している男の人がいたりします。「これは男がする」「これは女がする」と言う、かつての男女の役割についての考え方が、自然な流れで変化していると感じる記述になっています。
- **教育長** それでは、技術・家庭科（家庭分野）について採択をします。技術・家庭科（家庭分野）の教科用図書は、東京書籍株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
（「異議なし」の声あり）
- **教育長** それでは、技術・家庭科（家庭分野）の教科用図書は、東京書籍株式会社を採択することに決定いたします。次に、外国語科（英語）について審議をいたします。事務局から説明をお願いします。
- **指導室長** 外国語科においては、各学校段階の学びの接続や互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を一層重視する観点から、「話すこと〔やり取り〕」の領域を設定するとともに、言語の使用場面や言語の働きを適切に取り上げ、語、文法事項などの言語材料と言語活動とを効果的に関連付けて指導することなどの改善・充実が重視されています。外国語科（英語）につきましては、現在使用している教科用図書は、「東京書籍株式会社」でございします。全6者からの採択をお願いいたします。
- **教育長** それでは、外国語科（英語）の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をよろしくをお願いいたします。
- **坂根委員** 外国語科の目標の背景には、小学校での英語教育の成果があると考えます。「積

極的に英語で話す」、このアクティビティ活動は今まで行ってきましたが、今年度、小学校の英語が教科化され、さらに改善と発展が期待できます。中学校では、外国語を使って何ができるようになるか、それを明確にしていると考えます。それが先ほどの目標で、言語の4技能に5領域を加えた指標です。これらは、聞く、読む、話す（やり取り）、書くにつながっていると私は判断します。このことを重点的に考えると、私は東京書籍の「NEW HORIZON」が適当だと考えます。小学校の英語との違いは、動詞の認識、まず、b e 動詞と一般動詞からです。東京書籍1年では26ページ、27ページですが、分かりやすく説明できていると思います。東京書籍はユーズとフォーム、使い方と形と2つに分けてあります。情報量もそれほど多くないですが、使い方では、主語、動詞、補語となっていますが、その形をどう変えていくかという形になっています。各社扱っていますが、できるだけ文法用語なしで扱ったり、英語だけとか、目次に文法用語を使っていないとかそれぞれ考えているのですが、私はこのb e 動詞と一般動詞という言い方が、最初に体系化するのには適していると思います。啓林館もb e 動詞、一般動詞の説明がよくできていると考えます。また、まとめとして肯定文、否定文、疑問文の解説があります。ただ、一般動詞はもう少し後の、43ページにあります。東京書籍は見開きなので、項目としてまとまっていて見やすいです。次は、三人称単数現在ですが、ここですまなく生徒が増えます。小学校までに慣れ親しんできた会話文の口語から英語を文法的に体系化していくところです。しかし、「文型」と言う言い方は出ていません。「文の構造」「日英用語」の違いが書かれています。情報量が多過ぎず、少な過ぎずというのが東京書籍の書き方だと思います。東京書籍の66ページに書かれています、三人称単数現在に人称代名詞などが一緒に出てくると、混乱する可能性が高いので、1つだけ扱うということは導入としてふさわしいと思います。一般的なことですが、文法的な説明や文法用語の扱いについて、学習指導要領で、用語や用法の区別などの指導が中心とならないように配慮し、実際に活用できるようにするとともに、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導することとなっています。少し前までは「文法はできるけれども会話ができない」ということを言われた方もいますが、それは文法ができるのではなくて、学校英文法の用語は知っているということです。用語の知識があるということと言語の運用能力は別ですから、その点をこの学習指導要領は端的に指摘していると思います。3年で、後置修飾というところがあります。皆さんも関係代名詞という単元を学習した記憶があると思います。関係代名詞というのは、文をつなぐと習った方が多いかもしれませんが、3年の東京書籍の82ページでは関係代名詞ではなく、後置修飾という形で出ています。83ページには「名詞を後置修飾するのは接触節、関係代名詞」という記述があります。ここには、前置詞、t o 不定詞、現在分詞、過去分詞、をまとめて書いてあります。学習指導要領にもまとめて学ぶことの大切さが書かれています。つまり、文法項目を体系的に頭に入れるということが必要であると考えます。3年の仮定法は、改訂の追加項目ですが、3年の100ページの仮定法の中で、「あり得るかあり得ないかは、話し手の判断や状況によって変わることがある」という記述がありますが、分かりやすい説明だと思いました。次に、ディベートです。3年の102ページから105ページに書いてあります。105ページのワークルールのところで、ディベートで使える表現という項目があります。これはよくできています。「主張するとき」「意見を述べる」「理由を述べる」「例を述べる」などです。このような言い方の基本が書いて

あります。国語でも討論という、ディベートの項目がありますが、どういう表現をどういう時に使うかということはありません。英語の教科の方が詳しく書いてある印象があります。ディベートは英語を使う国民の方がよく行っているということかもしれません。読み物については、東京書籍の欠点として長文が少ないところです。長文を多く用いている教科書会社もあります。授業、副読本などでどのように補充していくかということが課題かと思います。東京書籍は3年の118ページ、119ページ、一番長い589ワードとなっています。これは、八田與一という、烏山頭ダムを建設した台湾総督府の技師の方の話です。大変分かりやすく、適当な題材かと思います。啓林館には、100ページから104ページに、折り紙大使として加瀬三郎さんのことが扱われていますが、この方は故人ですが、墨田区在住の方でした。そのことも触れてほしいと思います。教育出版は、女性の方の扱いが多くて、オードリー・ヘプバーンやキャサリン・ジョンソンを扱っています。キャサリン・ジョンソンは馴染みがないかもしれませんが、アメリカの黒人の女性の方で、NASAで初めて数学関係の研究と仕事をした一人です。最初はとても差別されたのですが、努力して認められるようになったという話が映画にもなっています。最後に、「CAN DO LIST」のことを申し上げます。「CAN DO LIST」というのは、各社いろいろ工夫がありますが、東京書籍が一番良いです。例えば、1年の裏表紙があり、1学年末、2学年末、3学年末のページにリストがあります。そこには「はっきりと話されれば日常的な話題について必要な情報を聞き取ることができる」と書いてあるものがあります。これは学習指導要領の文言そのままなのです。その点、東京書籍は具体的に中学1年の目標、2年の目標、3年の目標がステージの目標として1から3まで書いてあります。これが本来の「CAN DO LIST」の扱い方です。語学というのは学べば学ぶだけ向上します。このような形で「CAN DO LIST」が使われることが最もふさわしいと考えます。

- **白石委員** 私も東京書籍が良いと思います。東京書籍は、教科書の右上にある、二次元コードを使うことにより、本文だけではなく、語句の発音やアクセントを確認できて、動画を見ることが出来ます。これによって、家庭学習や自主学習にも活用できる利点があると思います。また、他社の教科書と比べるとサイズが大きいということもあります。小学校との連携も図られていると感じました。Unit 0から5までは小学校の既習事項が、学習するスタイルを基にして、聞く活動を中心にした授業を行うことができます。中学校に入学した生徒が、円滑に中学校で英語に慣れていくようにつくられているので、安心して学ぶことができると考えます。第1学年から第3学年までの教科書は、小学校の単語というコーナーが設けられていて、生徒が小学校で学んだ単語を想起させることができると考えます。また、巻末には小学校の単語という資料があり、小学校で習った単語の一覧を示していることも良いところだと思います。自分ができるようになったことを確認する「CAN DO LIST」では、自分の学年以外の目標も掲載されていて、前の学年で習ったことの振り返り、次の学年に上がる時の目標を確認することができて、生徒が見通しを持って学習できるところが良いのではないかと思います。このような点から、東京書籍が良いと考えます。
- **阿部委員** 私も、東京書籍が良いと思います。英語に関しては、墨田区の学力は着実に成果が出ていると認識しています。現在も東京書籍を使っているということで、継続して使える点も良いと思います。3年間の学習で、恐らく日常的な会話や発音などは、生徒自身がだん

だん喋ることができるようになったり、英語で子どもたち同士会話したりするトレーニングなどをすることで、学力がついたという実感が湧くと思います。元々英語が得意な生徒だと思いますが、海外派遣生のスピーチを聞くと、とても発音がきれいで、堂々と自分の考えを英語で表現できることについては、かなりレベルの高さを感じます。そして3年次の最終段階で、どの程度英語の読解力がついたかということも実感してもらいたいと思っています。そういう意味で、先ほど坂根委員がおっしゃったように、ある程度著名な人のスピーチや伝記、小説の一部、あるいは英字新聞など、少し難しくてもいわゆる正統な英語を原文で読めるようなレベルを実感してもらいたいと思います。先生方には、まとめの授業で少し難しい英文を読み込むトレーニングをお願いしたいと思います。このことから、東京書籍で全く異存ありません。

- **浅松委員** 私も東京書籍を推薦します。今後、受験方法も変わる中で、新制度に対応していくために、教師の授業や教科書の内容も工夫をしていかなければなりません。昨年の全国の学力調査の中では、「話す」では即興のやり取りに対応できなかったり、「書く」で文法の誤りが非常に多かったそうです。英語を学習する上で大切なことは、文法と単語だと思います。ただし、単純に単語を見せて、ひたすら書いて覚えるということではなく、例文や文章の中でまとめて文法と絡めて覚え、反復することが必要だと思います。結局は、その教科書を使いこなすことが、今後、英語教育で大事になってくると思いますし、同時に心配もしています。小学校で外国語が教科化され、中学校との連携を円滑に行う方法を考えた上で、教員は教科書を活用してもらいたいと思っています。
- **坂根委員** 阿部委員がおっしゃった長文のことですが、大学生の英語力が落ちている原因は、これまで得意としていた英文和訳の成績が落ちていることだと考えられています。やはり、長文を読む機会が少ないということに関係があると思います。
- **教育長** それでは、外国語科（英語）について採択をします。外国語科（英語）の教科用図書は、東京書籍株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
（「異議なし」の声あり）
- **教育長** では、外国語科（英語）の教科用図書は、東京書籍株式会社を採択することに決定いたします。では、議事の都合により、ここで教育委員会を一旦休憩します。なお、再開は午後3時50分といたします。

（休憩）

- **教育長** では、次に、特別の教科道徳について審議をいたします。事務局から説明をお願いします。
- **指導室長** 特別の教科道徳においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが重視されています。特別の教科道徳につきましては、現在使用している教科用図書は、「東京書籍株式会社」でございます。全7者からの採択をお願い

いたします。

- **教育長** それでは、特別の教科道徳の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をよろしくをお願いします。
- **阿部委員** 私は、日本文教出版を推薦したいと思います。まず、道徳に関する学習指導要領によりますと、A B C Dの4つの視点で分類し、これを相互に関連、発展させると書いてあります。そのA B C Dとは、まずA、主として自分自身に関すること、B、主として人との関わりに関すること、C、主として集団や社会との関わりに関すること、D、主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することです。各社とも、A B C Dの4つの観点を関連させて様々な題材を取り上げています。それぞれ学ぶべき生き方や価値観を考えさせるという工夫をしている点で、各社ともそれなりにすばらしい教科書だと思います。私は、道徳的な価値観を学ぶに際しては、いろいろな課題や場面で何が正しいかという答えありきではなく、自分なりに考える、あるいは生徒同士でいろいろと意見交換しながら、何が大切か、自分がその場にいたらどうするかなど、考えをまとめ、気づきを与える、その流れの過程を大切にしてほしいと考えています。しかし、教科としての道徳ですから、限られた授業時間内にまとめなくてはならないということがあるので、あまり横道にそれないように誘導するという考え方もあると思います。できれば、設問やヒントで答えを誘導するような教材はあまり望ましくないのではないかと考え、各社を比較してみました。少し具体的にお話ししますと、3つの観点で考えました。1つ目は、それぞれの課題の表題や発問をどのように取り上げているか。2つ目は、どんな題材を取り上げているか。3つ目は、授業の終わりのまとめの作業を工夫しているか。この3つの点で比較をしてみました。まず1つ目の、表題、発問の仕方についてです。項目の最初に表題プラス、サブテーマのようなことが書かれていて、何の問題をその課題で勉強するのかというヒントが与えられているものが多いと思います。また、さらに「あなたならどうする」などと簡単な発問が添えられているものもありました。東京書籍や教育出版は、最初にどんなことを考え、どのような方向に答えが流れていくのかというヒントを与えているような気がしました。また、章末にも問いがあり、段階的に、想定される結論へ導いていくような流れを、あらかじめ察知させるような発問がありました。先ほどお話しした、A B C Dの分野のどの分野の項目を勉強するのかということは、各社マークをつけたり色づけしたりしているので、表題を見れば何の勉強をするのか分かりますが、できれば導入時から一定の方向づけをしないで、子どもたちが自由な発想で、なるべく白紙の状態で考えるということが望ましいのではないかと考えます。その点で、日本文教出版は教材の表示が比較的シンプルで、あまり色づけをしていないという点に好感を持ちました。次に2つ目の題材についてです。各社ともそれぞれ工夫しており、それなりに優れていると思います。その中で特出すべきは、日本文教出版は、いじめと向き合うというテーマを1年から3年にかけて、他社よりも頻繁に取り上げています。いじめをいろいろな角度から考えさせるという点で、いじめをなくすという課題に正面から取り組む姿勢が明確であり、この点は大きく評価できる点だと思います。次に3つ目の、まとめについてですが、道徳の授業で学んだ内容を身につけるということを考えたときには、授業でいろいろ議論し、考えただけで終わりにしないで、その日の結果をきちんとまとめる必要があると思います。そして、できれば自分の考えを文字にまとめて記録に残すことがとても大切な学習の過程だと考えま

す。その点で、日本文教出版には、道徳ノートという別冊のノートがついていまして、比較的量は少ないのですが、項目ごとに、必ずその各課題について自分の気づいたことや考えを記録する方式になっています。これはとても有効であると思います。ちなみに廣済堂あかつきも別冊のノート式になっていますが、廣済堂あかつきの場合は補助教材に近く、追加情報として載っている内容が多く、記録するノートの部分は付録的な印象なので、使いにくいのかなという印象を持ちました。光村図書や日本教科書は、癖がなく、シンプルで使いやすいとは思いますが、先ほど申し上げたように、全体としてあまり考えを誘導しないで、生徒に考えさせる、そして最後にきちんとまとめさせるという点で、日本文教出版が一番良いという結論に至りました。

- **教育長** 私も日本文教出版株式会社を推薦します。「考えてみよう」と「自分に+1」の2問と問題数が少なく、リードすることがないと、違った方向に行ってしまうかもしれないが、じっくり考えて正しい方向に行くということは重要です。問題数が多いと、じっくり考えることができなくなる可能性があります。その点で日本文教出版株式会社が良いと思います。また、道徳ノートの分冊化については、メモを整理して記入できて、考え方を整理するために有効活用できると思います。次に、いじめについてです。毎年新聞でも話題になっていますが、いじめの根絶というのはやっぱり無理ではないかを前提として考えていくことが必要だと考えます。要するに、人間が生きていく中で、いじめはあって、いじめがあったときに、どう対処していくかを教育していくことが必要であると思います。日本文教出版では、いじめとは何かということと、いじめの背景や心理状況を取り上げていて、いじめをしっかりと分析しています。「いじめをしてはいけない。」だけではなく、客観的に分析して対処できるようになったり、大人に相談するだけではなく、子どもたちの中でも解決できる糸口が出てくると思います。いじめがあり、傍観者は誰か、仲裁者は誰か、観衆は誰なのか、ということを考えていく中で、このような分類があるんだということを子どもたちに気づかせて、子どもたち全体で解決をしていくということが必要になってくると思います。いじめが教員に伝わってこない、親にも伝わってこない、子どもたちもプライドがどのように行動するのかについては、文教出版の「いじめと向き合う」での分析が役に立つのではないかと考えます。また、いじめについては、各社でも感動する話が載っています。「いじめをしてはいけない」というマイナス面だけではなく、すばらしい生き方も子どもたちに教えていきながら、「駄目なことは駄目」と伝えていきます。例えば、野口健さんの環境の話がありますが、ごみを捨てる人もいるけれども、ごみを拾う人もいて、それがつながっていて、みんなで環境の課題について考えるきっかけになっている。人間はすばらしいということも子どもたちに教えることが必要だと思います。いじめについて構造的に考えさせながら、各社もすばらしい話を載せていますが、私は日本文教出版を推薦します。
- **浅松委員** 私も日本文教出版を推薦します。いじめの話題が出ておりますが、特別活動や生活指導ではなく、道徳という教科で教えるいじめとは何だろうかといつも考えます。以前は、いじめが、学級や放課後などでの直接的なアプローチを考えさせる教材が多かったような印象でしたが、今回は間接的で、心の動揺といった心情的な教材が増えてきたなと思いました。東京書籍のいじめの捉え方は、前回と同じなのですが、全学年1ユニットで、親しみのある漫画形式でつくられています。漫画の場合、その顔つきだとか目つきなど人物の表情が、ダ

イレクトに伝わってきますが、逆にそこから学びとり、じっくり考えていくというプロセスに影響してしまうのではないかという点が気になりました。漫画だとわかりやすく、東京書籍のポリシーでもあるのかなと思いますが、読むと答えが出てしまっているという点が少し気になりました。道徳の教科化のきっかけになったいじめ問題を正面から取り上げ、間接的なもの、直接的なもの両方を扱うという丁寧さや、ユニットで3～2つの時期に分けていますが、1年次の早いうちにいじめを扱っているという点から、日本文教出版の教科書がふさわしいと思います。

- **坂根委員** 私も日本文教出版を推薦します。日本文教出版は、出典がはっきりしています。編集委員会がつくったものは「作・編集委員会」や「〇〇をもとに編集員会で再編成」となっています。教材は各社それぞれ良い点がありますが、改編をした場合は改編したということを書くべきだと思います。その点が一番評価する点です。
- **教育長** それでは、特別の教科道徳について採択をします。特別の教科道徳の教科用図書は、日本文教出版株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、特別の教科道徳の教科用図書は、日本文教出版株式会社を採択することに決定いたします。それでは、議案第34号は、以上のとおり採択することに決定いたします。

議決事項第2・・・35-1～35-2

議案第35号「特別支援学級用教科用図書採択について」を上程し、指導室長が資料のとおり説明する。

- **教育長** では、ただいまの説明について何かご質疑、ご意見はございますでしょうか。
- **浅松委員** 昨年度も同様の質問をしましたが、特別支援学級において教科用図書として使用できる、文部科学省が著作の名義を有する教科用図書、あるいは一般図書はどのくらいあるのでしょうか。
- **指導室長** 令和3年度使用の目録では、文部科学省が著作の名義を有する教科用図書には、知的障害者用として、小学校は、国語、算数、音楽が各1種類ずつ、合計10点です。中学校は、国語、数学、音楽が各1種類ずつ、計6点です。令和3年度使用特別支援教育教科書調査研究資料一般図書には、各教科により数が異なりますが、合計で705点です。
- **教育長** 各学校に教科用図書というのは多数あると思いますが、どのような基準で教科用図書を選ぶことになりますか。
- **指導室長** 児童・生徒の実態を第一に考えて検討を進めています。それと同時に、保護者の意向も大切にしなければなりません。そこで各学校では、総合的に判断して、使用する教科用図書を選んでいきます。
- **坂根委員** 現在コロナウイルスが蔓延している状態で一般図書などを選ぶときに、特に配慮していることはありますか。
- **指導室長** 児童・生徒の実態に合っているかどうかをしっかりと見極めていくことが重要です。それぞれの障害等に適さないものだと、学びの効果が低くなってしまいます。各学校は、コロナ禍でも、児童・生徒一人一人の実態に応じたものをしっかりと選択しています。

- **教育長** それでは、令和３年度に特別支援学級で使用する教科用図書は、児童・生徒の能力及び興味・関心等を考慮し、一人一人の実態に合った教科用図書を使用する趣旨から、特別支援学校において使用されている、文部科学省が著作の名義を有する教科用図書及び、この「特別支援教育教科用図書調査研究資料」に記載されている、全ての一般図書を採択することにしたと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、令和３年度に特別支援学級で使用する教科用図書は、特別支援学校において使用されている、文部科学省が著作の名義を有する教科用図書及び、この「特別支援教育教科用図書調査研究資料」に記載されている、全ての一般図書を採択することとし、議案第35号は、以上のとおり決定いたします。以上で議決事項の審議を終了いたします。

報告事項第１・・・資料 1-1

「新型コロナウイルス感染症対策における連合行事の実施について」庶務課長が資料のとおり説明する。

- **教育長** ただいまの説明について、何かご質疑はございますか。
(質疑なし)
- **教育長** この報告は、墨田区教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則第３条に基づく教育長の臨時代理による処理の報告ですので、委員会としての承認が必要となります。承認してよろしいでしょうか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、報告のとおり承認することにします。以上で本日の議事は全て終了しましたので、これで教育委員会を閉会します。